

yawaragi

やわらぎ

第16号
2013



学習院女子大学
Gakushuin Women's College

学習院女子大学 事務統括部

〒162-8650 東京都新宿区戸山3-20-1 Tel 03(3203)1906 Fax 03(3203)8373
ホームページ <http://www.gwc.gakushuin.ac.jp/>

学習院女子大学だより



CONTENTS

President's Message	3	学長挨拶
Special Lecture by the Crown Prince	4	皇太子殿下特別講義 「中世史料への誘い～学習院大学史料館にある西園寺家文書を読む～」
Crosscurrents Gallery	5	特集 ほんものを見せる 味せる そして魅せる 文化交流ギャラリー アートマネジメント国際セミナー 新しい時代のアートマネジメントを考える ほんものが揃う 古典籍と絵本の数々 文化交流ギャラリー 特別展
Gakushuin Women's College Institute of International Studies	10	国際学研究所の発足とプロジェクト紹介
Performing Arts Festival at Gakushuin Women's College	12	Pafe. GWC
ITCL presents The Taming of the Shrew	13	英国劇団ITCL「じゃじゃ馬馴らし」学習院女子大学公演
Project for Food Consciousness	14	フードコンシャスネス 「食から耕す未来と文化：フードコンシャスネスとエデュケーション・バリューチェーン」 フードコンシャスネスプロジェクトの活動
Study Program in Washington D.C.	16	国際文化交流演習 ワシントン・セミナー
Special Lectures	18	特別講義の紹介
GWC Scholarly Meeting	20	学習院女子大学学会より 「江戸」の発見 「越境するコリアン その移動の歴史と現状」
New Faculty Academic Conference Held on Campus	22	新任専任教員紹介 本学で開催された学会・研究会
Suntory Prize for Social Services and Humanities Visiting Research Fellow	23	サントリー学芸賞 受賞のこぼれ 平成25年度客員研究員受入一覽
Faculty publications	24	専任教員著書の紹介
From the Library	25	図書館からのお知らせ
International Students at GWC	26	留学生報告
Report From Romania	28	海外留学報告
Day Trip to Chichibu Study Abroad	29	留學生日帰りバス旅行～秩父～ 留学情報
Yawaragi Festival	30	和祭
Miyabi Festival Outing in May	31	雅祭 皇月さんぽ
Extracurricular Activities	32	輔仁会団体紹介
'GWC EXPRESS' Published	33	GWC Express vol.2 刊行
Graduating Seniors' Employment	34	学習院女子大学の就職力
From the Placement Affairs Section	36	キャリア支援部からのお知らせ
GWC Data	38	学習院女子大学データ
Academic Calendar	39	平成26年度 学年暦
From the Sojokai Alumnae Association	40	草上会からのお知らせ
From the Parents' Association	42	学習院父母会の近況報告
Information from GWC	43	トピックス



学長 石澤 靖治

大手経済誌『週刊ダイヤモンド』2013年10月12日号の特集「就職に強い大学総合ランキング」で、本学は全体の20位、女子大では国立のお茶の水女子大に次いで2位、私立女子大では全国で1位になりました。

これは就職率と就職先の内容など、4つの指標をもとにして点数化したランキングによるものです。この種の特集は各種あり、どのような指標を使うかによって順位は変わってきますが、今回の評価は十分に胸を張っていいものと考えています。学生自身のがんばりはいうまでもありませんが、本学の教育に対する姿勢、職員のきめ細かな支援、OGによる面接対策セミナーなど、各方面での努力が実を結んだものです。

リア」という言葉を使ったのは、就職というものを「会社に入る」というように単純に考えて欲しくないからです。

大学の4年間というのは、自分の人生をじっくり考える時期です。その中で自分はどういう人間なのかを改めて問い、今後どのような人生を送りたいのか、そのためには現在何をすればいいのかということを考える必要があります。その上で、「進路」を決めるわけです。そしてその「進路」として職業をもつということを選択した場合、人生を長期的に考えて、自分が社会人としてどのような「キャリア」を積んでいくと考えるのか。そこから組織や職種が具体的に決まってくるわけです。ですから、みなさんには真剣に自分を見つめることに、改めて取り

その上で改めて「進路」あるいは「キャリア」について考えてみたいと思います。ほとんどの大学生は大学卒業後に「就職」をします。そして本学は「それから変わらず一生懸命に就職支援を行っていきます。にもかかわらず、「進路」「キャリア」という言葉を使ったのは、就職というものを「会社に入る」というように単純に考えて欲しくないからです。

組んで欲しいと思っています。たまに「先輩で 業界に行く人が多いから、私もそこに行けるものだ」と思っているという話を聞くことがあります。これはある意味で素直なかもしれませんが、自分のことを深く考えている言葉とは思えません。このような発想の場合、就職活動で苦戦するか、あるいはその業界に入っても、その後ミスマッチに悩むことになるかもしれません。

もう一言しておきたいのは、自分の可能性を限定しないように、ということとです。みなさんはまだ、20年くらいしか「生きてきていません。みなさんのこれまでの実績も評価も、人生における最初の部分だけのものです。これから長く可能性のある人生が待っている中で、自分はいくら「自分はこんなもの」というように、自分の可能性に蓋をする必要は全くありません。もちろん誇大な妄想に陥ることはよくありませんが、この大学の4年間に自分の能力を広げられるだけ広げてみてください。みなさんが自分の人生に真剣に向き合うことを期待します。そして大学もそれに応える場であるように、努力を続けていきます。

みなさんは、
まだ20年くらいしか生きていません



中世史料への誘い ～ 学習院大学史料館にある西園寺家文書を読む～

皇太子殿下の本学での特別講義「中世史料への誘い」学習院大学史料館にある西園寺家文書を読む」が一月三日午後時から一時半まで二二教室でおこなわれました。今年度で二〇回目となるこの講義は各学科の学生、大学院生、教職員あわせて約二〇〇名が受講しました。

本年度のご講義は、学習院大学史料館の所蔵する西園寺家文書の中から、中世の古文書や古記録(日記)などを紹介し、実際に史料に触れることで、歴史に対する理解を深めることを目的としたものでした。

ご講義は、全体として四部に構成されます。冒頭では、「西園寺家について」というタイトルで、藤原氏の系図を参照しながら、西園寺家の歴史が概観されました。この系図は、ご講義を通じて度々参照され、ご講義の内容を理解する上で重要な役割を果たしました。引き続き、西園寺家文書について、学習院大学に西園寺家文書が寄贈された経緯が紹介され、更に、西園寺家文書の紹介へと話題は転じます。ここでは、河瀬清貞山城国美豆牧代官職請文、西園寺実益位記、笏紙が取り上げられ、西園寺家文書の多様性が、内容・形式の両面から浮き彫りにされました。笏紙の裏に貼るカノゾグベーパーも、数百年後には立派な「古文書」なのです。

最後に、「西園寺家文書を読む」というタイトルで、「公衡公記」西園寺家車図、御廐司次第」に関する解釈が示されました。「公衡公記」は、後伏見天皇の即位に触れた最も詳しい記録ですが、そうした珍しい記事の内容を確認する方法として、たとえば登場人物をどのよう特定するかといった事柄が、具体的に説明されました。西園寺家車図の八種類の絵図については、車内を飾る絵の種類(唐絵、大和絵)と車の所有者の身分との関連が指摘されました。「御廐司次第」は、河内国の「御牧」を管理する「御廐司」の名前を列挙した文書ですが、そこには、西園寺家関係者の他にも、平忠盛、清盛をはじめとする平氏族の名前や、木曾義仲、源頼朝、義経といった名前が列記されています。この事実を驚いた学生は多かったのではないのでしょうか。

今回のご講義は、専門的なテーマを扱っておられました。周りに準備された配布資料と明快なご説明によって、西園寺家文書に関する学生たちの理解は十分に深められたようです。

(日本文化学科教授 伊藤守幸)



教育は押しなべてそうですが、とくにグロバル人材の育成に当たる大学では、学生がほんものにじかに接するこれがいよいよ求められています。自国の文化を海外へ発信し、国際交流を期する。それは、体験による熟知があるこそ果たされます。本学はすでに伝統文化の演習や海外研修などさまざまな科目を設けて、直截の実践を重視し、現場での活動を奨めてきています。

私は、国際文化交流学部の学部長に就く際、なすべき幾つかのこのひとつに、学生・大学院生が文物(法律・学問・芸術・宗教などの文化に関する物)に親しむ機会をいっそう増やそうと考えました。将来を担う若者が、歴史や文化をかたどった実物を目の当たりにして味わう。その経験は自信となつて、内外でのコミュニケーションに活かされます。また、留学生が日本文化を具体的に知るよい機会となり、外国の日本研究者も呼びこむ。その実現は本学の理念そのものです。

幸いにも、本学は教員が、卒業生が寄贈して下さった文物の数々を有しています。

それは前身の短期大学時代の遺産を踏まえ、さらに拡充したものです。自身も、図書館にそつたものをそろえるよう努めてきました。図書館は学習・研究情報の収集とその提供を行いつつ、学部・研究科の発展を考量する機関です。昨今の大学間の厳しい競争を乗りきるには、教員の専門研究に欠かせない稀覯資料を充実させ、学内で社会でメンバーが発揮できるように備えていくべきです。その具体的な施策は、ほかにない文化資源を積極的に収集し、供覧する。これに尽きます。自身、専攻分野の研究教育用に収集したコレクションを幾度も展示してきました。

平成23年の秋に文化交流ギャラリー(Crosscurrents Gallery)がスタートして二年以上が経過しました。学芸員課程における実習施設として、それまでの展示スペースを大幅に改修して創設した展示空間です。兼ねて、本学の教育・研究理念の達成と、講義・演習の成果を視覚的に提供



する場としました。収蔵資料管理委員会が運営を担当し、同年の秋から諸先生のご協力を得て日本と諸外国の歴史文化・現代文化の展示を多様に行うことができました。(本誌前号 第15号)。

文化交流ギャラリーはさまざまな文化がまさに潮流となつて行き交うような美術館です。また、ギャラリー・トークをたびたび催してきたように、国際交流について語り合うサロンともなっています。設営に当たり、清水敏男教授、藤野華怜副手からご協力をいただいたことに感謝申し上げます。

(国際文化交流学部長・日本文化学科教授 徳田和夫)

ほんものを見せる

味せる

そして魅せる

特集

— 文化交流ギャラリー —
(関連記事 6～9ページ)

見せる
魅せる



講演者は矢内廣氏
演題「日本のエンタメ産業の未来」



講演者はジャン=ユベール・マルタン氏(フランス)
演題「現代美術に普遍性はあるか」



アートマネジメント国際セミナー 新しい時代の アートマネジメントを考える

日本文化学科 教授 清水 敏男(本セミナー企画者)

近代美術館元館長のジャン=ユベール・マルタン氏を招きました。マルタン氏は1989年に開催された『大地の魔術師たち』の企画者であり、西欧中心主義だった近代美術館のあり方の改革について熱心な講義を行っていただきました。

さらに全国各地から招聘した講師たちが、それぞれの事例の紹介を通して世界が共有できる新しいアートマネジメントの可能性について講義しました。例えば、フラヒム・アラウイ氏(フランス国立アラブ世界研究所元所長)はアラブ・イスラム世界の美術館建設運動の紹介という貴重な講義でした。

日本からは美術館館長、アートマネジメント研究者、企業文化専門家、文化情報専門家、オークション会社社長など多様な専門家をお招きしました。アートマネジメントと都市再生に関する調査研究の講義、美術館の理念に関する講義など重要な講義が続けられました。

本セミナーは一般公開であり、本学の学生に加えて行政の文化担当者、博物館、美術館学芸員、企業の社会貢献担当者、メセナ担当者、ジャーナリスト、美術評論家、アートプロジェクトスタッフなど広範な方が参加しました。さまざまな分野で活動している多くの方が会場を訪れ、毎回熱心な空気に包まれました。大学がその殻に閉じこもることなく、広く学外の人々と交流し、情報を発信することが重要であることをあらためて認識させられました。

本セミナーは主として90分の講義(全13回)で構成され、各講師の講義がじっくりと聴けるようにしました。最後に2回のシンポジウムを開催し、

本学では平成25年度秋10月から翌年の3月にかけて『アートマネジメント国際セミナー 新しい時代のアートマネジメントを考える』を開催しました。21世紀の入り口にある現在、世界の様相は大きく変わるつとめています。アジア、アフリカ、中東などの諸国では経済力をつけるに促し文化芸術活動を充実させつつあります。壮麗な博物館、美術館が建設され、今まさに新しいアートマネジメントを模索しているところなのです。その一方で博物館、美術館等の長い歴史を有する国々においても大型美術館の改革、新しい博物館・美術館の建設など、新しい時代に対応したアートマネジメントを求めています。

本セミナーでは、アートマネジメントの専門家を中心に国内外から招聘し、アートマネジメントをさまざまな角度から取り上げ、新しい時代、21世紀のアートマネジメントを創成することを目的として実施されました。人的交流を推進し、新しい時代の思考を直接世界に発信しようとするのです。

本セミナーの特色は、世界各地においてアートマネジメントの第一線で活動している専門家を広範囲に招いたこと、一般公開として学外の多くの方に参加いただいたこと、連続して主に講義形式で開催することで各専門家の話を時間をかけて聞くことをめざしたこと、そして運営を本学の大学院と学部が共同で行ったことです。

講師として日本のみならず世界各地からさまざまな専門家を延べ20名以上お呼びしました。海外からはフランス、アメリカ合衆国、中国、香港、韓国、タイ、モロッコ、イスラエルの専門家が参加しました。フランスからはボンビドー・センター、フランス国立



左)デイヴィッド・ファーチゴット氏(アメリカ)
右)ジョン・チャン氏(香港)

それぞれアジアと日本の美術館の未来像について専門家たちに語っていただきました。

本学では学部を設置された学芸員課程、大学院の文化マネジメント関連の演習、講義を通じて文化マネジメントの専門家の育成につとめています。学部、大学院を通じて多くの専門家が教育に当たり、短い歴史ながら博物館・美術館学芸員、行政の文化担当者、公的文化施設の運営担当者、企業の文化事業スタッフ等を送り出すに当たります。本セミナーの広報、運営、当日のオペレーションを担当したのはアートマネジメントを学ぶ学部、大学院の学生たちでした。世界の専門家と接する貴重な経験となりました。

こうしたセミナーの開催を通じて本学のアートマネジメント教育が広く認識され、アートマネジメントを学ぶ学生が増えることを期待しています。本セミナーは2014年度も継続開催することが決まっていますが、すでに開催途中から世界から注目されアメリカ等から協力の申し出があります。本セミナーを世界各国の協力で継続することにより、その意義をより深いものとする事が出来れば幸いです。

文化交流ギャラリー 特別展

ほんものが揃う

― 古典籍と絵本の数々

1. 「文化の華」展

(共催 中古文学会、春季大会 貴重書籍等展示)

(平成25年6月3～14日)

昨年の6月8日、9日に、中古文学会の春季大会が本学で催されました。中古文学会は昭和41年(1966)に平安時代の文学の研究を推進するために設立され、現在、会員約二五〇名を擁しています。

右の大会に合わせて、同常任委員会委員の日本文化学科伊藤守幸教授が中心となり、特別展示を催しました。本学の学生や大学院生、教職員が、ほんものの文物に接する良い機会となりました。

運営に際して、学習院大学日本語日本文学科 本学名誉教授永井和子先生、笠間書院編集長橋本孝氏から多大な御協力をいただき、感謝申し上げます。

学習院大学日本語日本文学科所蔵

伊勢物語 三奈西家旧蔵本 列帖装帖 室町時代写本

枕草子 三奈西家旧蔵本 袋綴 冊 室町時代写本

故松尾聰博士旧蔵、永井和子名誉教授所管 文藝文化 昭和41年(1966)合本、三冊

昭和13年(1938)7月～19年(1944)8月 刊の全77冊の内、故松尾博士が執筆された創刊

「ちりめん本」というキャラクターブック 明治時代の文化発信

2. 国際学研究所(GIS)開設記念特別展

昨年四月に国際学研究所が発足しました。それを機に日本近代における海外への文化発信と国際文化交流のさまを顧みる特別展示を行いました。日本の伝承的な物語がちりめん本と呼ばれる美しい絵本となっており、世界に広がっていたのです。本学図書館蔵本を紹介します。

ちりめん本は明治時代に作られた小型の絵本です。和紙を使用し、木版多色刷りの挿絵を付けています。外国語に翻訳した文章を活版で印刷し、その料紙を加工して細かい皺をつけ、絹織物の縮緬布のように仕上げられています。その出版と販売の創始者は、長谷川武次郎(嘉永6年1853～昭和13年1938)です。武次郎の父は食品輸入業を営んでおり、現在の輸入食品店「明治屋」の前身(幼いころから英語に触れる環境に育ちました。のちに洋酒や外国語の教科書・文具などを輸入し、通訳や英語塾にも携わって英語教師や宣教師と交友し、イギリス人ハシル・ポール・チェンバレンの勧めにより、ちりめん本を創案しました。日本の昔話・伝説や神話を外国語に訳した『日本昔噺』シリーズ(Japanese Fairy Tale Series 20篇21冊)はその代表作です(当初の『鉢かじり』は後に『文福茶釜』に差し替えられた)。



同時展示：民間話系のお伽草子と浮世絵



ちりめん本『日本昔噺』シリーズの一部

号、46号分。博士の事後考究が直接に、また貼紙に書き込まれている。

徳田和夫教授所蔵

源氏物語切 一葉(空蟬巻)17・7×39・4 cm 16世紀写
源氏物語切 一葉(初音巻)17・0×16・5 cm 17世紀写 伝鳥丸光康筆 極札 烏丸殿光康

源氏繪 常夏 一紙 28・3×24・4 cm 16世紀写
源氏繪 篝火 一紙 28・4×24・1 cm 16世紀写
源氏繪 須磨 一紙 21・2×18・5 cm 17世紀後期写
源氏繪 浮舟 一紙 24・8×20・9 cm 白描繪 18世紀
伊勢物語切 第62段 一葉 16・4×15・3 cm 14～15世紀写 伝三奈家為定筆

裏書「三奈家為定卿」為定卿(牛六)。独自異文か、未考。
伊勢物語切 第65段 一葉 22・4×14・8 cm 16世紀
写「伝猪苗代兼載筆 極札 耕閑軒兼載法橋」
伊勢物語古注切 一葉 21・2×12・8 cm 16世紀写

物語中の人物に実在人物を当てている。こつした動物は古く、和歌知頭集(抄)に見られる。あるいは旧注の書の断簡とすべきか、未考。



左：伊勢物語切 14～15世紀、右：伊勢物語切 16世紀



伊勢物語絵巻 断簡 第14段 16世紀



源氏繪「篝火」16世紀

源氏繪「常夏」16世紀

伊勢物語絵巻 断簡三紙 30・3×29・4、31・3×43・4、31・3×39・2 cm 16世紀写

東下り、第9段、10段、14段(詞書)(参考出品 幸若舞曲「小袖曾我」断簡 16世紀写)

伊勢物語絵巻 断簡 一紙 第5段 6段 34・4×46・7 cm 17世紀写

住吉物語絵巻 断簡 一紙 35・3×22・9 cm 16世紀写
(『学習院女子大学紀要』14号)

扇の草子 30・7×22・5 cm 17世紀写 三代集、伊勢物語の和歌の扇絵(『学習院女子大学紀要』6号)

(国際文化交流学部長・日本文化学科 教授 徳田和夫)

の話。口は crocodile と訳される。

12 野干の手柄 The Cub's Triumph 狐と狸の化け比べ譚 お伽草子に『変化あらそひ』絵巻がある。

13 海月 The Silly Jelly-Fish「猿の生き肝」とも呼ばれる。「口は禍の門」との教訓譚。

14 玉ノ井 The Princess Fire-Flash and Fire-Fade 海幸山幸」で知られる兄弟譚

15 依藤太 My Lord Bag-O-Rice 藤原藤太秀郷の武勇伝承。お伽草子に同名作品がある。

16 文福茶釜 The Wonderful Tea-Kettle 群馬県館林市の茂林寺伝説に昔話「狐の恩返し」を合わせて創られた。

17 竹節太郎 Schipetiano 名大しん(い)太郎(早太郎とも)が活躍する怪物退治伝説。

18 羅生門 The Ogre's Arm 渡辺綱の鬼退治の物語。お伽草子に同名作品がある。

19 大江山 The Ogres of Oyeyama 源頼光の酒吞童子退治の物語。お伽草子に『大江山絵巻』『酒吞童子』。

20 養老乃瀧 The Enchanted Waterfall 古今著聞集『説話 謡曲』養老、『酒の泉絵巻』等の若返りの泉伝説。

* 小泉八雲訳『日本昔話』5冊本(平均縦19・0、横14・0 cm) 明治32年(1899)～大正11年(1922)刊

1 猫を描いた少年 The Boy Who Drew Cats 鈴木華郎画。類話『雪舟と鼠の絵』伝説。

2 化け蜘蛛 The Goblin Spider 回画。化物退治譚。お伽草子「土蜘蛛の草子絵巻」と同系の物語。

3 団子をなぐったおはなはら The Old Woman Who Lost Her Dumpling 昔話「団子浄土」。

4 ちんちん小袴 Chin-Chin Kobakama 鈴木華郎・新井芳宗画。こま楊子が化けて出てくる妖怪変化の物語。

5 不老の泉 The Fountain of Youth 絵師不明 新井芳宗か。若返りの泉の物語。

* 単発挿絵本
『老鼠告状再版』The Rat's Plaint 唯一の横長本。
(担当 国際学研究所顧問 日本文化学科教授 徳田和夫、大学院修士課程2年 小林早彩)

学習院女子大学国際学研究所(GIIS: Gakushuin Women's College Institute of International Studies)は(1)国際文化交流研究(2)国際問題研究(3)比較文化研究(4)アジア太平洋研究(5)ならびに外国における日本研究支援を推進し、もって本学の教育理念の一層の充実に資することを目的とし、2013年4月1日に正式に発足しました。これらの設立目的を達成するため、(1)学術上の研究および調査ならびにその成果の発表(2)文献・資料の収集および出版・公開(3)研究会・講演会、シンポジウムなどの開催(4)その他、上記の設立目的達成のために必要とする事業など、さまざまな学術研究活動を積極的に展開してまいります。

国際学研究所の設立により、学習院国際交流基金の海外機関交流研究事業として本学が2012年から推進してきた東アジア大学間学術交流事業は、右記(4)のアジア太平洋研究の環として新たに位置づけられ、GIISの中核をなすプロジェクトの二つとなりました。これまでの東アジア大学間学術交流事業に関しては、ゆらぐ境界・戦時期東アジアと「日本」というテーマの第1回ワークショップが2012年7月に本学で開催されました。また、「日韓における東アジア研究：その動向と課題」を題とした第2回ワークショップは、韓国の高麗大学亜細亜問題研究所との共催で2012年12月にソウルで行われました。

国際学研究所の設立記念シンポジウムを兼ねて2013年4月に本学で行われた第3回

ワークショップは、「アジア太平洋地域の政交代・新たな地域協力への模索」というきわめて時宜を得たテーマでした。周知のとおり、2012年から2013年に至るまでにアジア太平洋地域の国々、すなわち米国、日本、中国、韓国における政交代が次々と行われてきました。激変する同地域の状況をふまえつつ、国際関係論を中心とする学際的な観点からアジア太平洋地域における政交代の現状と今後の展望について真摯に議論する貴重な機会でした。とりわけ、それぞれの分野における第一人者の著名な4名の方々に講師を迎えることができました。当日は、多くの学者や外部の方々、学生あわせて約300名が参加し、会場は満席となりました。第一線の学者や専門家による講演を通じ、それぞれ個別国の新リーダーが直面する内治と外交に対する理解をより一層深めたと同時に、アジア太平洋地域の平和と発展のために互いに展開できる新たな協力関係を模索する大変良い機会となりました(プログラムの内容および当日の様子は、本文末尾)。

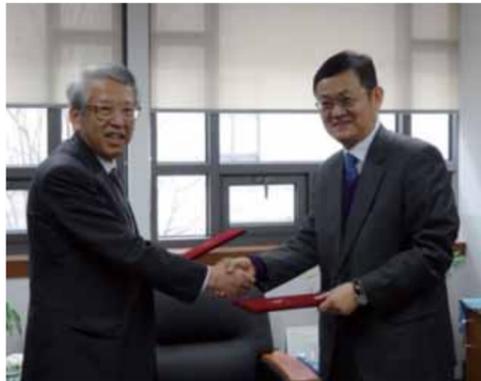
「戦争、植民地、和解 東アジア現代史再考」をテーマとした第4回ワークショップは2013年7月に本学で行われました。約80名が参加し満席となった当日のワークショップでは、韓国と中国・台湾出身の研究者にご報告いただき、東アジアにおける歴史認識の問題に関して、活発な議論がなされました。プログラム終了後も懇親会において、報告者の方々と率直な意見交換をすることができ、学生たちにとっても貴重な機会となったと

思います(プログラムの内容および当日の様子は、本文末尾)。

また、国際学研究所は、今後海外の研究機関とも積極的な連携を模索しています。その連携の一環として、このたび、韓国・高麗大学の亜細亜問題研究所(ARI: Asiatic Research Institute)と学術研究交流に関する協定を結びました。国際学研究所としては、海外研究機関との国際連携および協定締結の第1号となります。2013年11月、GIISの佐久間潮所長と金野純副所長、羅京洙所員が高麗大学を訪れ、協定調印と共に、ARIの李鍾和所長や関係者の方々と東アジアの情勢や両研究所の今後の交流に関する意見交換を行いました。1957年

に開設し、半世紀以上、アジア地域関連のさまざまな研究活動を展開してきた高麗大学亜細亜問題研究所は、韓国初の大学附設研究所として内外によく知られているシンクタンクです。今回の協定締結を機に、共同研究や国際会議の共催、人的交流など、さまざまな学術交流が活発に展開されることが期待できます。

以上のような活動が持つ最大の目的と意義は、単なる一回性の行事にとどまることなく、GIISが今後も意義深い学術活動を持続的に展開していくという「志」を世の中に示したことにあります。急変する国際社会の平和と発展という普遍的目標のために必要である未来志向的な学術交流を探究・発信できる「場」が切に求められている中、本学の国際学研究所に求められる役割は大きいと思います。



高麗大学亜細亜問題研究所との協定締結

(国際学研究所委員会委員 / 国際コミュニケーション学科専任講師 羅京洙)

第3回ワークショップ

- 開会の辞 佐久間 潮(学習院女子大学国際文化交流学部教授 / 国際学研究所長)
- 趣旨説明 羅 京洙(学習院女子大学国際文化交流学部専任講師)
- 基調講演 「学習院女子大学国際学研究所のヴィジョン」石澤 靖治(学習院女子大学長)
- 特別講演 「オバマ政権の東アジア外交と日米関係」藤崎 一郎(前駐米大使)
- 講演 「習近平政権の特徴と東アジア外交」天児 慧(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授 / 現代中国研究所長)
- 講演 「朴槿恵政権の特徴と東アジア外交」李 來榮(高麗大学政治外交学教授 / 亜細亜問題研究所長)
- 総合討論 畠山 圭一(学習院女子大学国際文化交流学部教授) 金野 純(学習院女子大学国際文化交流学部准教授) 桜井 泉(朝日新聞記者)



第4回ワークショップ

- 開会挨拶 金野 純(学習院女子大学)
- 講演 「韓国における植民地支配への観点と『歴史的』和解の可能性」宋 圭振(高麗大学)
- 「理解と和解の間:台湾史研究の視点から」洪 郁如(一橋大学)
- 「記憶の戦争から歴史的和解へ:日中関係再考」楊 大慶(ジョージ・ワシントン大学)
- 総合討論 劉 傑(早稲田大学) 武井 彩佳(学習院女子大学)



Gakushuin Women's College Institute of International Studies

国際学研究所の発足とプロジェクト紹介



英国劇団ITCL 「じゃじゃ馬馴らし」 学習院女子大学公演

The Taming of the Shrew



本学の国際文化交流事業のひとつである英国劇団ITCLによる『エイクスピア劇公演』が、2013年5月25日(土)午後4時半より、本学やわらぎホールにて行われました。ITCLの本学公演は2007年秋の動物農場(Animal Farm)から始まり、7年目を迎える今年の演目は「じゃじゃ馬馴らし(The Taming of the Shrew)」。

エリザベス・テラーとリチャード・バートン主演の映画版(1967)やミュージカル版「キスミー・ケイト」(1953)などでも有名な本作品はその序幕がほとんどの場合カットされ、本筋である「劇中劇」のみが上演されるのですが、今回の舞台では

この序幕もきちんと見せてくれました。さらに(以下、パフ・レポートから拙文の引用ですが)主役ケイトが理想の妻像を語り、普通はこれで終幕というときに、何と、原作では序幕で登場したきり出番のないスライと、原作では登場しない彼の奥さんが現れ、酔っ払いの彼に喝!という新演出で観客を大いに楽しませてくれました。ここで「劇中劇」じゃじゃ馬馴らしを夢の中で見ていたスライは現実世界へ戻ります。演出家ステビングスの「夢は必ず醒めるもの」という意図でしょうか。実際、現実とはそんなに甘くない!でも、だからこそ私たちはつかの間でも夢を見たいと願うのではないのでしょうか。エイクスピアは、そんな私たち観客にも夢を見る(観る)楽しさを与えてくれたのです。

英国劇団の本学公演は、当日、劇団を受け入れるための広報活動や公演当日の会場設置から観客の誘導まで、いわゆる劇場スタッフのほとんどの役割を、ゼミ生をはじめとした有志の学生たちが分担して行います。芝居終了後は、学生たちと劇団のメンバーによる交流タイムも設けられ、学生たちは拙いながらも堂々と英語で役者たちに質問をします。和やかなムードの中で意見の交換があり、ここでは学内に居ながらにして、学生と英国劇団員らによる「国際交流」といって、もうひとつの立派な「舞台」が生み出されます。また今年から公演費用が国際



文化交流学部の予算として講じられたことで、本学全体の行事として重要性が高まった感もあり、今後ますますこの催しが学内外で広く人気を得ることが期待されます。

平成26年(2014年)度の公演演目は「ロミオとジュリエット(Romeo and Juliet)」が決定しており、より多くの学生の皆さんがこの芝居を観て、生の舞台の素晴らしさに感激してもらえれば幸いです。最後に、本学公演パフ・レポートに寄稿して下さいました石澤学長をはじめご支援いただいた徳田学部長、諸先生方、事務の皆様そして劇場スタッフとして公演を支えてくれた学生諸君に心より感謝申し上げます。

(国際コミュニケーション学科教授 古庄信)



pafe.GWC

Performing Arts Festival at Gakushuin Women's College

今年もPafe(Performing Arts Festival at Gakushuin Women's College)が11月に催されました。2年前まで「感劇市場」と呼ばれていた演劇フェスティバルです。学生自身の活動が中心の学園祭とは異なり、鋭の演劇人や舞踊家を招いて先端的な舞台を見せる本格的な演劇祭です。もちろん優れた劇団が大学で公演することは珍しくありませんが、学生自身が実行委員会を組織してこのような演劇祭を運営しているというケースを日本ではほかに聞いたことがありません。アートマネジメント教育に力を入れている学習院女子大学ならではのイベントでしょう。実行委員会の中心は舞台芸術部ですが、現場には大学院や学部のアートマネジメント系科目の受講者も参加し、フェスティバル運営に協力しています。

今年11月10日、もはや恒例となったシリーズコンドルズの『国宝人間』から始まり、オリビックの『予行演習』として注目された今年の国体開会式、その壮大な演出を担当した近藤良平氏がここではトモアに満ちたダンスを見せました。さらに、コンドルズが新しい振付家を発掘するために設けたCCC(コンドルズ振付コンペティション)の結

果発表と授賞式、そして受賞者公演も行われました。16日と17日は舞台芸術部の「さくらの会・太宰治、女生徒より」。

演出は今年利賀演出家コンクールで優秀演出家賞を受けた島貴之氏。観客を狭い舞台に上げ、役者たちが広い客席を往來する斬新な演出で、女生徒の夢の世界を不気味に、しかし美しく描き出しました。

例年Pafeは11月の毎週末に1作品ずつ公演してきましたが、今年新しい試みをしました。11月25日から12月1日にかけて、平日には夜の公演、週末には二日に4作品を上演することです。二つは劇団ユトクポインツの『アイ・アム・アン・エイリアン』(作・演出 山田裕幸)。これは再演を重ねる定評ある作品です。あとの三つは共通テーマで新作を創ることとし、演出家たちの話し合いの結果、1920年・1970年・2020年という三つの時代の女子大生を描いた3作品を連続上演しようということになりました。全体



のタイトルは、女子大生100年日記。大正時代が「放課後」(作古川健・演出倉迫康史)、昭和時代が高野悦子、二十歳の「原点」を原作にした「こうしてワタシは完全になる」(作・演出小池竹見)、未来版が「40歳の女子大生」(作・演出横田修)です。会場はいつものやわらぎホールではなく、互敬会館の3階・2階・1階を使いました。観客はガイドに導かれて館内を巡回し、最後には3作品の底を流れるテーマが現れます。この作品は多くの観客の心を揺るがせ、演劇情報サイトCOrichでも過半数の評者から満点を獲得、五つ星の評価となりました。

(日本文化学科教授 尼ヶ崎彬)

食から耕す未来と文化

フードコンシャスネスと
エデュケーショナルバリューチェーン

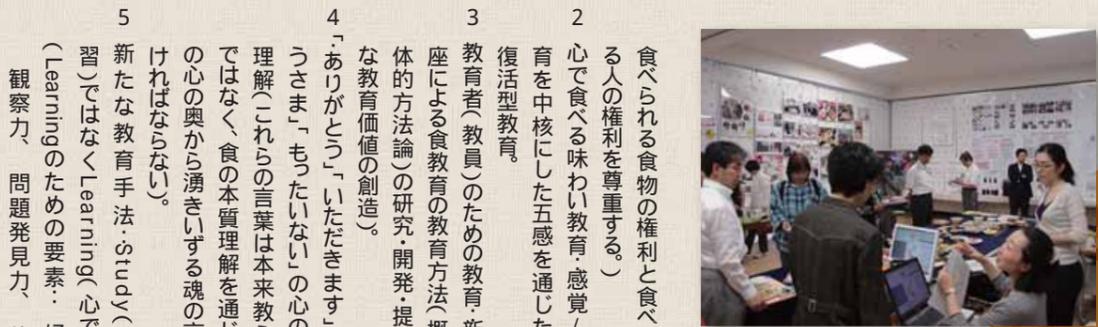
2012年2月11日、15日、食から耕す未来と文化、フードコンシャスネスとエデュケーショナルバリューチェーンと題し、イタリア味覚教育センターとの連携でシンポジウムとラボラトリーを開催し、多くの参加者を得た。

食に関する新たな視座を求めるといふフードコンシャスネス(食を自覚的に意識する)は、食という切り口から学際性を前提に、感性教育や体感学習を通じた味わい教育による知の体験機会を提供するという使命をもつスタートした。

単なる食教育ではなく、フードコンシャスネスという新たな概念を提起した理由はいくつがある。その一つは「これまでの栄養学重視型で知らないことを教える」という知識・情報提供(主導)型食教育を超えるためである。

フードコンシャスネスは教育の本質である「ユリカール(Educare)」に由来する。引き出す」という概念を尊重し、その本質に即して本来人間のもっている五感をフル活用した「食そのものを意識する食教育」を重視している。

詳細は<http://www.ocgakushuin.ac.jp/gwc/cic/>あるいは小著『Project for Food Consciousness』その展開と意味(『日本官能評価学会誌第16号第2号』(2012年10月発行))を参照して欲しいが、フードコンシャスネスが他の食育と本質的に異なる点は主に以下である。



- 1 食の権利の重視: 食材」という言葉を「使わない」食は命であり、材料ではない。食べられる食物の権利と食へる人の権利を尊重する。
- 2 心で食べる味わい教育: 感覚/味覚教育を中核にした五感を通じた人間力復活型教育。
- 3 教育者(教員)のための教育: 新たな視座による食教育の教育方法(概念と具体的方法論)の研究・開発・提供(新たな教育価値の創造)。
- 4 「ありがとうございます」「ごちそうさま」「もったいない」の心の本質的理解(これらの言葉は本来教えるものではなく、食の本質理解を通じた自らの心の奥から湧き上がる魂の言葉でなければならぬ)。
- 5 新たな教育手法: study(知識学習)ではなく「learning(心で学ぶ)」。観察力、問題発見力、体感力、

- 6 教育的価値連鎖 (Educational Value Chain): フードコンシャスネスを基盤にしたEVCを通じて、行政、産業、教育機関、地域社会、消費者等々とのバリューチェーンを通じて日本のみならず世界へ貢献する。
- 7 C S V (Creating Shared Value): フードコンシャスネスはEVCを通じた社会的価値連鎖をベースにした共創価値活動である。

食を通じた新たな教育哲学と手法の開発を通じて、生産者支援型の入口・フードに勝るとも劣らない日本発、否学習院女子大学発の新しい価値創造活動を世界に向けて発信したい。フードコンシャスネスという英名を冠したのもそのためである。

現在展開している主要な活動内容

- フードコンシャスネス・インストラクター養成講座の開催
- 「味わい教育」講座の開催
- 教育現場における「味覚教育教師」の養成
- 学生のための「体験型食と感覚の授業」の研究開発・開催
- 先生と保護者のための「食と感覚の授業」の研究開発・開催
- 学校菜園プロジェクトの推奨
- 季節の作物と郷土料理の学校給食への導入
- 学校給食の授業的意味づけの開発・導入
- 作物の納入および学生の訪問が可能な生産者ネットワークの構築
- 食物と食文化に関する教材の作成と配布
- 食・環境に関するシンポジウム、講演会、ワークショップの開催他

(国際コミュニケーション学科教授 江口泰広)

2013年の環境教育センター、フードコンシャスネスプロジェクトの主な活動は「味わい教育」インストラクター3級、フードコンシャスネスインストラクター(養成講習会の開催、味わい教育に関する講演、内閣府主催食育推進全国大会への参加と発表、日本食育学会や日本食生活学会での発表、農林水産省主催の消費者の部屋での展示や講演、移動消費者の部屋の学内開催と農水大臣の視察、韓国アジオグスト参加と講演、若者は魚食をどう考えるかシンポジウムでの基調講演、フードコンシャスネス関連のEcoサイエンス教室(親子味わい教室)開催、フードコンシャス

ネス論 との寄付講座の開催、雑誌、機関誌への投稿など、2011年から始まったフードコンシャスネスの食教育の流れが日本や韓国にも広がっている。

の講習会は回数を重ね、これまで10回近く開催し発展を遂げている。すなわち、食を自己の五感や心で感じる能力を育むとともに食を通して自然観や感謝の念を培うことを重要視した講習会で学習院に相応しい理念を有している。では各地の教育委員会や小学校や保育会での講演やワークショップを展開し、園児や児童、学校給食に携わる保育士、栄養教諭、学校栄養士に対し、これまでの栄養学中心の概念提供型の食育活動とは別の味わいを体験し、感じることに重きを置く教育を提供した。

い教室」を体験し、食教育の必要性と農水省の役割、大臣自身の味わい力の鋭さを披露した。

韓国で開催された大地と食の祭典、アジオグストでは海外で初めて「フードコンシャスネス」の理念や活動を報告するとともに味わい教室のワークショップを実施した。日本と韓国の自然観や食に対する考え方に多くの共通性があり、東洋人の誇りを感じた。

本学学生による親子教室「Ecoサイエンス教室」が8回行われ、牛乳、煮干し、鰹節、里芋、バナナなど、フードコンシャスネスに関連した題材をとりあげ、五感と心で感じる味わい教室を本学5号館で実施し、親子に食に関する多くの学びを提供した。



今年度、和食がユネスコの無形文化遺産に登録された。和食とは日本料理のことであるが、単に日本料理という概念より、和食とは和らぐ食を意味し、安らぎと喜びをもたらす食であると思う。このように考えると、フードコンシャスネスはまさしく学習院女子大学に相応しい日本的な味わい深いものである。フードコンシャスネスの新たな食教育の視座が学習院女子大学発であることにも意味があるように感じる。

日本文化学科教授 品川明)

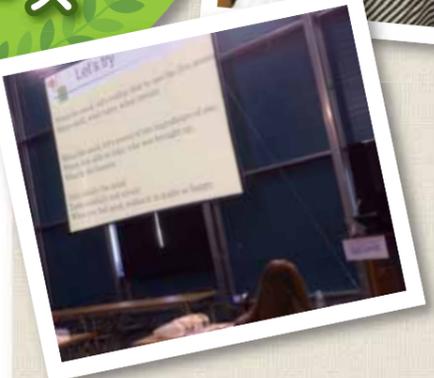


推進全国大会(広島)では「味わい」のための五感と五感の大切さ、五感と心で感じる味わい教室を実践した。

本学で開催した移動消費者の部屋では、農林水産大臣が本学に来校され、学生とともに味覚を鍛えるプログラム「味わ



フードコンシャスネスプロジェクトの活動



国際文化交流演習 ワシントン・セミナー



アメリカの首都ワシントンD.C.は国際政治に大きな影響力を持つ世界都市であるばかりか、世界銀行（国際復興開発銀行 / I B R D）や国際通貨基金（I M F）が本部を置く国際金融のセンターであり、また世界最大の博物館群を持つ教育研究機関であるスミソニアン協会や世界最大の図書館であるアメリカ連邦議会図書館さらにはワシントン・ナショナル美術館やフィリップス・コレクションなどの世界的美術館を擁する世界の文化・芸術の一大拠点としての顔も持っています。

「ワシントン・セミナー（国際文化交流演習 X・X・X）」はそうしたさまざまな顔を持つワシントンD.C.に



において将来国際協力や国際文化交流の実務に携わりたいと考えている学生や、アメリカの政治・経済・外交・文化等に関心を抱く学生を対象に行われる夏期集中研修です。8月後半の2週間、参加した学生は各種の国際機関・文化機関・連邦機関・州政府機関・歴史施設等を訪問し、ふだん一般人が立ち入ることのない施設内で幹部職員による講義や演習指導を受け、国際協力や文化交流の活動実態を知り、またアメリカの政治文化の実情について理解を深めます。

参加が許される学生は25人に制限され、参加にあたっては義務として7月から8月上旬にかけて約45時間の事前研修が科せられ、2週間にわたる本研修では早朝から夕刻まで、各機関で代表や理事を含む上級幹部職員の講義と研修指導を受けることとなります。

ワシントン・セミナーは平成14年（2002年）の夏、本学の国際文化交流の担い手として国際社会で活躍できる女子のリーダーを育成する」という設立理念の具体化として、国際社会の現場における本物の体験を学生に提供するプログラムの一つとして始まりました。

前年（2001年）の9・11米中核同時多発テロ事件から、まだ年も経っていない時でした。研修で訪れたペンタゴンではテロで破壊された施設の修復がまだ済んでいない生々しい廃墟が残っていました。またワシントンD.C.の環として実施されたコーキークにおける国連日本国代表部での研修後、多くの学生が自由行動の時間を使って犠牲者を追悼するため貿易センタービルの廃墟を訪問しました。

そんなテロの記憶の生々しく残る緊張感のなかで、21世紀という新たな世紀の世界を担うという気概を持って参加した研修生の態度は真剣そのものでした。今とは異なり、その時の実施期間は8月5日～31日の約1か月に及び、プログラムも午前中がジョージタウン大学での語学研修、午後から各機関での訪問研修というスケジュールとなっており、さらに休日の土・日はアメリカ建国の史跡（最初のイギリス入植地である「ジエムスタウン」 パージア植民地の首都である「ウィリアムズバーグ」 第三代大統領ジェファソンの邸宅とプランテーションである「モンティチェロ」 第四代大統領マシンの巨大邸宅である「モントペリエ」

の巨大邸宅である「モントペリエ」

第五代大統領モンローの家である「アッシュコートン・ハイランド」 南北戦争の激戦地である「マナッサス」等々をバスを使って丸一日間で巡るといふ強行軍で、まさにプロパティア精神を地でいくプログラムでした。

当時と研修形態は変わりましたが、ワシントン・セミナーの精神は第一回から一貫しています。それは、国際社会を支え導くリーダーとなる。そのために世界の先頭に立ちて活躍する人に会い、時間と体力が許す限り一杯、自らの資質を養う努力を怠らない」という精神です。

以来、13年が経ちましたが、SARSのために中止を余儀なくされた2回を除いて毎年開催されていますが、ハードスケジュールを承知の上で毎回20人前後の学生が参加し、修了生の数はすでに250人を超えています。

学生が研修で指導を受ける方々は、最高責任者を含むいずれも各分野の第一線で活躍するトップリーダーであり、真剣に世界や国家や社会のために人生を奉じている方々です。この研修を通して学生はそれぞれに尊敬すべき人と出会い、さまざまな感化を受け、本物に接すること

で、自らの生き方や将来像を真剣に考えるようになります。

事実、二週間の研修中に、学生の取り組み姿勢や表情は見違えるほどたくましく精悍なものになっていきます。そこには、もはやリーダーを憧れとして仰ぎ見るのではなく、リーダーとしての自分の姿を明確に心に描き、そのための努力を惜しまないという決意が感じられます。

そうした学生一人一人の中に起った変化は、その後の進路が示していると思います。

修了者の中には、国際協力に従事することを決意して海外の大学院に進学するもの、国際協力銀行などの国際援助を担う政府系機関に勤務するもの、経済や文化をめぐる国際紛争解決のための法務に従事するための文化施設に奉職して文化事業・交流事業を担当するもの、公務員となつて国際化の推進を担うものなど、研修で得た志を直接職業選択に結びつけている例も少なくありません。また、それ以外でも、セミナーでの

体験は十分に生かされて、修了生は皆、自らがどう社会に貢献するかを真剣に考えながら職業選択に行っています。その意味で、ワシントン・セミナー修了者は着実に国際社会を支える力として成長しています。やがてはそれぞれの職域・職場で中心的存在となり、ますますその真価を発揮すると期待しています。

なお、平成25年度の研修では、次のような機関・施設を訪問し講義指導を受けました。

- 国際機関として世界銀行（I B R D）本部、国際通貨基金（I M F）本部、文化施設としてスミソニアン協会、連邦議会図書館アジア部事務局、フィリップス・コレクション、国際協力機関としてアメリカ国際開発庁（U S A I D）、日本国際協力機構（J A I C）ワシントン代表事務所、日米両国の文化交流・広報政策機関として駐米日本国大使館広報文化班、国務省国際情報計画局（D O S、U S I I P）アメリカの政治については連邦議会議事堂、メリランド州政府ワシントン・ポスト、海軍士官学校アメリカの歴史・文化についてはメリランド州議会議事堂（二期、連邦議会議事堂となり、ジョー



ジョージタウンが大陸軍司令官告辞演説を行った「マウントバーノン（ジョージ・ワシントン邸宅）、メリランド州知事公邸、ダバートン・オークス庭園と同邸宅（国際連合創設会議場として知られている）、コブエンクラ（アメリカの代表的社交クラブで、イェール賞受賞者を中心に知識人が多く所属）などです。

また、過去に訪問し、講義指導を受けた主な施設としては、大統領府（ホワイトハウス）、国防総省（ペンタゴン）、国土安全保障省（D H S）、国家安全保障省連邦緊急事態管理庁（D H S、F E M A）、連邦航空宇宙局（N A S A）、N A S A、宇宙ド宇宙飛行センター、連邦環境保護庁（U S E P A）、内務省国立公園

- 局（D O I、N P S）、連邦議会下院議員事務所、連邦最高裁判所、国連本部、日本国連代表部、国連広報センター、ワシントン連絡事務所、米州開発銀行、米州保健機構（P A H O）、F O X N E W S ワシントン支局、ワシントン・ナショナル・プレス・センター、ワシントン国立美術館、ケネディ・センター（国立劇場）、事務局、ワシントン・パフォーミング・アート・センター、ワシントン・ナショナル・オペラ本部事務局および楽屋都市問題研究所（Urban Institute）、ワールドウォッチ研究所、ヘリテージ財団、ナショナル・ジオグラフィック本部、ジエムスタウン（イギリス最初の入植地）、ウィリアムズバーグ（バージニア植民地首都）、モンティチェロ（ジェファソン大統領邸）、モントペリエ（マシソン大統領邸）、アッシュコートン・ハイランド（モンロー大統領邸）、マナッサス南北戦争古戦場、アレキサンドリア（アメリカ植民地第二の港町）、ワシントン国家大聖堂、双日ワシントン事務所、日立製作所ワシントン事務所、アメリカ N P O 法人 C E P E X、Sunrook Institute、その他があります。

（国際コミュニケーション学科 教授 畠山圭一）



国際コミュニケーション学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
ルワンダの開発と経済	シャルル・ムリガンデ閣下	在日ルワンダ共和国大使館 ルワンダ特命全権大使	5月8日	5限	国際開発論	眞城百華
～日韓間の生活様式の違い～	沈 東婁	駐日韓国大使館 韓国文化院長	5月27日	4限	朝鮮文化論	羅京洙
中国から見た日本人女性像 ～女性の視点からの国際交流～	管 陽子	東北財経大学国際交流処所属・ 国際商務外語学院日語専攻	6月10日	5限	国際コミュニケーション 基礎演習 D・D	管陽子
「現代日本社会における日本語と放送」	塩田 雄大	NHK放送文化研究所 研究員	7月9日	3限	社会言語学	福島直恭
ルネサンスと科学	ヒロ・ヒライ	オランダ・ナイメーヘン大学 哲学史・科学史研究所 研究員	7月18日	2限	ヨーロッパ文化論	根占献一
私とイタリア(そして世界)	ヒロ・ヒライ	オランダ・ナイメーヘン大学 哲学史・科学史研究所 研究員	7月22日	4限	国際コミュニケーション 演習 L・L	根占献一
ワードの調べとイスラム世界	常味 裕司	ワード演奏家	12月3日	2限	イスラム文化論	小野仁美
スーダンにおける民主化の現状と障害者教育支援	モハムド・オマル・アブティン	スーダン障害者教育支援の会(CAPEDS)理事長	6月25日	4限	国際コミュニケーション 演習 Q・Q	津山直子
「ecute/エキュート」のマーケティング戦略	三井 剛	(株)JR東日本ステーションリテイリング 代表取締役社長	7月3日	3限	マーケティング	江口泰広
ケニア民主化の中で揺れる国内避難民	大上 博史	特定非営利活動法人 日本救援行動センター(JARC)事務局長	6月17日	3限	地域研究基礎論	中島崇文
国際協力NGOセンターの役割と 国連総会ポストMDGs特別イベント報告	堀内 葵	認定NPO法人国際協力NGOセンター(JANIC) 調査提言グループ	10月1日	5限	ボランティア論	津山直子
香港経済の歴史と現在	李 培徳	香港大学教授	10月23日	2限	中国文化論	金野純
Cultural Exchange in US-Japan Relations	Peter Grilli	President of The Japan Society of Boston	10月16日	3限	マーケティング	江口泰広
Ise Jingu and the Shikinen-Sengu as a metaphor for social and economic renewal and rebirth	Peter Grilli	President of The Japan Society of Boston	10月16日	4限	国際コミュニケーション 演習 C・C	江口泰広
近代社会における部落差別と人種主義	黒川 みどり	静岡大学教育学部教授	11月18日	3限	ヨーロッパ政治史	武井彩佳
パチンコから見た西欧	上野 景文	杏林大学外国語学部客員教授	11月28日	2限	イタリア文化論	根占献一
日常生活と歴史認識の接点としての記念日: ハンガリーの事例から	辻河 典子	日本学術振興会特別研究員(PD)	1月10日	4限	東欧文化論	中島崇文
近世日本におけるヨーロッパ食文化の受容	野澤 文二	フランス国立日本研究センター・協力研究員	1月15日	3限	国際関係論(日欧関係)	工藤晶人
「韓国社会と多文化主義」	尹 麟鎮	高麗大学社会学部教授	1月14日	5限	国際コミュニケーション 演習 K・K	羅京洙

国際コミュニケーション学科・英語コミュニケーション学科

JAMAICA ~ Message for Love and Peace ~	齋藤 千佳	システム科学コンサルタンツ(株) コンサルティング本部マネージャー	7月2日	4限	国際コミュニケーション 演習 B・B/ 英語コミュニケーション演習 B	G.R.ファリア
「Learn English and more! 漱石と私の場合」	多胡 吉郎	作家。元NHKディレクター、プロデューサー	10月28日	3限	国際コミュニケーション基礎演習 B・F・S B・F・S/英語コミュニケーション 基礎演習 A・E・A・E	J.F.モア

日本文化学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
食文化の比較「台湾のお茶から食文化を考える」	沈 甫翰	奇古堂(台湾茶、茶器などの美術ギャラリー)社長	5月22日	5限	比較生活文化論 (地域食文化論)	磯部泰子
日本酒に出会う	遊佐 勇人	人気酒造株式会社 代表取締役	6月6日	4限	比較生活文化論(嗜好)	中野美季
インターネット時代のスポーツ報道 ～スローメディアとしての新聞の役割について	落合 博	毎日新聞社 論説委員	7月1日	4限	現代文化論 「スポーツ文化論」	荒井啓子
魚を五感で感じよう ～体感のフィッシュヒーリング～	鈴木 香里武/ 長楽 ゆりか	(株)カリブ・コラボレーション 代表取締役/ 演奏家	6月14日	3限	日本文化演習 N・N/ 国際コミュニケーション演習 U・U	品川明

英語コミュニケーション学科

慈恵の根本枝葉果実説について	林 東洋	学習院大学 非常勤講師	6月15日	14:00 ～ 15:30	英語コミュニケーション演習 A	岩崎光洋
----------------	------	-------------	-------	---------------------	-----------------	------

共通科目

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
実務法曹への道 - 法科大学院と新司法試験 -	今井 秀智/ 大宮 和子/ 石田 由美子	國學院大学法科大学院教授(弁護士)/ 東京開智法律事務所弁護士/ 東京開智法律事務所弁護士	6月10日	3限	法学	櫻井大三
「食」から触れる旧ユーゴスラヴィア地域	鈴木 健太	日本学術振興会特別研究員(東京外国語大学)	7月5日	2限	国際文化交流論 (日本文化交流史)	中島崇文
「カンボジアの遺跡 - 浮彫りからみるアンコールの世界 -」	丸井 雅子	上智大学外国語学部アジア文化副専攻 准教授	6月14日	5限	国際文化交流論 (環境教育)	乾尚彦
銀行員にとっての民法とは - 民法実践講座 -	小林 朝弘	住友信託銀行株式会社 新宿西口支店 次長	11月18日	3限	法学	櫻井大三
パラリンピックとウエルネス - 2012ロンドン大会から2020東京大会へ -	真田 久	筑波大学体育学系教授 (筑波大学オリンピック教育プラットフォーム委員長)	12月9日	4限	生活環境論 「ウエルネス論」	荒井啓子

学芸員課程

博物館における資料撮影及び 写真の保存・活用	勝田 徹	国立歴史民俗博物館管理部博物館 事業課専門職員	11月1日	3限	博物館資料論	岩瀬令治
---------------------------	------	----------------------------	-------	----	--------	------

司書課程

ティレル氏の活動を通して見る図書館の新たな展開: 国境、図書館の枠を超えた貢献の可能性	Barbara B. Tillett	Chair, Joint Steering Committee for Development of RDA 本学訪問研究員	10月5日	18:00 ～ 19:30	情報サービス論	江藤正己
--	--------------------	---	-------	---------------------	---------	------

国際文化交流研究科

キリシタンと西洋古典 - 古代地中海から近世日本まで	渡邊 顕彦	大妻女子大学 比較文化学部 准教授	6月24日	3限	比較文化演習 A	根占献一
ルソン交流史から再考する「鎖国」の形成	清水 有子	明治学院大学キリスト教研究所 客員研究員	11月11日	3限	比較文化演習 A	根占献一
大英図書館が所蔵する日本関係史料概説	伊川 健二	大阪大学文学研究科・招聘准教授	1月20日	3限	比較文化演習 A	根占献一

越境するコリアン その移動の歴史と現状

2013年11月7日
国際コミュニケーション学科 専任講師
羅 京洙



韓国政府の発表によれば、2011年現在、およそ727万人のコリアンが全世界の175余の国家・地域で暮らしています。その中で、270万人以上の中国朝鮮族が最も多く、続いて在米韓人(218万人)、在日コリアン(90万人)、帰化者を含む、独立国家共同体(旧ソ連)の高麗人(53万人)などの順であります。その規模から考えると、彼らは、同じ東アジア地域から国際移動を果たした華人・華僑(約3千万人)や日系人(約250万人)に比べても決して

小さくありません。しかし、こうしたコリアンの国際移動は今日のみの現象ではありません。近代におけるコリアンの越境現象は、少なくとも19世紀半ばからの移動の歴史が積み重ねられたものであります。このような国境を越えるコリアンに関する問題意識として、次の2点を取り上げたいと思います。

まず、「ディアスポラ」(diaspora)という概念です。民族の分散現象を意味するこの言葉は、何らかの迫害や追放による集団的・精神的なトラウマを受けた民族が、散在する地域に集まり、互いに支え合いながら生活している状態を指します。この概念は、古代から現代まで、さまざまな歴史的背景において、依然として議論の余地があります。たとえば、現代におけるアメリカ、ヨーロッパ、東南アジアなどへの移動のように、自らよりよい生活を求めて自発的に国境を越えたコリアンも大勢存在し、その場合は迫害を受けて追放されたわけではないです。

次に、越境するコリアンの自己アイデンティティです。母国と異国の狭間に置かれ、彼らの移動史は、「同胞」と「外国人」という曖昧な立場の中で苦悩せざるを得ない歴史でもありました。そのため、「他者」としてマージナルな経験をしてきた彼らのアイデンティティも、母国の人々・異国の人々と似て非なるものであります。しかし、越境するコリアン



Gakushuin Women's College

“江戸”の発見

2013年11月7日
日本文化学科 教授
岩淵 令治



江戸の都市の生活や文化は、庶民レベルの日本の「伝統文化」としてつとに語りあげられてきました。しかし、そこで語られる江戸「表象」は、実態と乖離した過大評価であることも多くあります。たとえば、リサイクル都市・清潔都市のイメージはその好例です。まずリサイクルについては、紙・金属の回収と再利用のシステム、陶磁器などを修理する職人、尿尿の肥料利用があげられます。しかし、実際に江戸遺跡の発掘で出土するゴミは、様相が異なる

リサイクルの可能性が高いのですが、陶磁器の修理例はあまりありません。酒屋のいわばリターナブル瓶であるはずの通い徳利は、酒屋に戻されず、膨大な量がしかもほぼ完全な形で出土しているのです。また、下肥については江戸では尿のみを利用し、尿の利用は九世紀まで遅れました。このため、尿は側溝に「垂れ流し」されたのです。都市江戸において、経済価値があるものが再利用されたのであって、環境問題や



Gakushuin Women's College

資源の問題から重視されている今日の「リサイクル」とは、発想が異なっています。生産力が必要に見合えば、こうした再利用は姿を消すことになり得ます。近代になって「ものを大切に作る心」が失われたわけではありません。ゴミ処理については、目を決めて河湾端に集め、船で江戸湾の沖に投棄するシステムが十七世紀半ばに確立しました。ただし、対象は船による回収が可能な江戸中心部の町々で、武家地や山の手の場末の町々は対象外でした。こうした場合は人口過密ではありませんが、四谷の幕府御家人組屋敷の一角が実際にはゴミ捨て場となるなど、ゴミの不法投棄が起きているのです。

また、城下町の歴史は、武家の都市から町人の都市へと説明されます。町人社会の展開こそが都市の成長・変容をもたらしてきたことは疑いありません。しかし、面積・人口ともに大きな割合を占めた武家を喪失した江戸像は、かつて「江戸ッ子」が語ったものであり、研究史の二つの結果でもあります。たとえば町火消ばかりが評価される江戸の消防組

織ですが、武家火消も機能しつづけていました。また、参勤交代で藩主に伴って江戸にやってくる各藩の勤番武士は、「江戸ッ子」たちから田舎者(「浅黄裏」と馬鹿にされていました。しかし、彼らの中には頻りに江戸に来る者があり、彼らを顧客とする世界が江戸に存在していました。じつは、浅黄裏の定着は、「江戸ッ子」の成立と同じ十八世紀後半の文学作品でした。江戸住民という自意識形成の中で、異なる存在として勤番武士が「田舎者」にされたのです。

Gakushuin Women's College

私の専門は日本近世史です。古文書を基本的な研究素材として、とくに都市江戸の研究をしています。縄文土器が好きな、考古少年「だうた私」が、都市江戸に興味を持ったのは、二つのきっかけからでした。一つは、高校生の時、大名屋敷跡の発掘に誘っていただいたことです。当時江戸遺跡の調査は黎明期で、圧倒的な遺物量や、他分野との協業の可能性など、未知の領域に興味をかきたてられました。そして、遺物や遺構を間近に見て、武士たちと都市社会のかわりに興味を持ちました。もう一つは、当時の都心部の再開発で生活空間であった池袋が激変し、一方で江戸ブームによって、懐かしい「江戸らしいもの」がもてはやされた、ということに違和感を持ったのです。

こうして江戸に興味を持った私は、主に二つの研究テーマにとりこんでいます。一つは武家地の研究です。近世都市史研究では町人地が主な対象であるので、江戸を素材に、武家屋敷成立による江戸近接村の変容、武家の都市治安維持機能、大名家の消費と出入商人・職人、関係する寺社、武家屋敷の神仏公開、藩士の日常生活や購買行動と都市社会の関係など、武家屋敷を含めた地域社会、武家地社会の検討をすすめています。

新任専任教員紹介

もう一つは、町・商人の研究です。「江戸」の再評価への疑問とかかわって町共同体の変容、土地の物件化とこれ

を集積する商人の意識を明らかにしました。また商人については、江戸に本店を持つ上方の問屋商人(三井など)ではなく、先行研究のない江戸場末の仲買商人をとりあげ、仕入れ・販売や、奉公人の中途採用などの特質を論じました。さらに、集団と個の関係についても検討しています。

岩淵 令治 (いわぶち れいじ)



日本文化学科 教授
略歴
東京大学大学院人文社会研究科博士課程単位取得退学。博士(文学)。東京都江戸東京博物館専門研究員、日本学術振興会特別研究員(PD)、国立歴史民俗博物館研究部助手、准教授を経て、2013年4月より本学の教授。
主な著書は『日本近世史』(放送大学教育振興会)、『The Uses of First Person Writings Africa, America, Asia, Europe』(Peter Lang Publishing)、『大名江戸屋敷の建設と近世社会』(中央公論美術出版)など。

最近では、明るい江戸イメージと実態のズレや、イメージの形成過程にも関心があります(20ページ)。また、博物館勤務での展示や共同研究で、多分野の研究者の方々と接する機会をいただき、自分自身の関心や視野も広がりました。こうした経験もさらに研究や教育に生かしていきたいと思っています。



地中海帝国の片影
フランス領アルジェリアの19世紀
(東京大学出版会)

工藤 晶人
(くどう あきひと)
学習院女子大学
国際文化交流学部准教授



受賞の1冊

いくつかの偶然に導かれてアルジェリアの近代史を研究するようになってから迷いを抱え、回り道をしながら勉強を続けてきました。そこに分け入って歴史を学ばねばならないという切実な思いの一方で、外国人としてなぜこの土地の歴史を研究するのか、そもそもそれは誰にとつての歴史なのか、という問いが頭から離れることはありませんでした。

この本でとりあげたオランという町には、坂道の上に県庁舎があり、大きな建物の片隅に小さな歴史資料室が置かれています。その窓越しに南側からの地中海を見たとき、ひとつの感覚に打たれたことを今でも覚えています。人が海に向き合うとすれば、対岸にも同じようにしている人がいる。陸地を結びつける海にはいくつもまなざしが交わり、共振しながら歴史が作り出されている。複数の歴史が重なりあう場という本書の主題は、この直感に裏づけられています。

文書館にもつて史料を読み、過去の人々の痕跡を読み解いていくとき、既成の二項対立はしばしば意味を失います。アルジェリアとフランスの歴史は、たしかに衝突と軋轢に満ちています。しかしそれを、交わり合う二つのない

二つの世界の対立として、「中心」が「周縁」を支配するという決定論にしたがって説明しにくくすることはできません。

文書館の外での体験も、図式的な理解から私を遠ざけました。19世紀は、ある意味では遠く、ある意味では近い時代です。直接に体験した存命者はいなくとも、記憶を受け継ぐ人々が生きています。彼らの話を聞くなかで、それらが相互に矛盾し、ときには不協和音となる場面を何度も経験しました。その声はずっと耳にこびりついています。

ひとつの地域のなかに複数性を読みとるといふ課題は、こつた経験をつづつて明確になつていきました。その試みは、いまだ緒にのたばかりです。冒頭の問いに対する答えが明確になつたわけではありませんが、いわば中間報告であるこの本に、読者がもしも共鳴し、現代をよりよく考えるきっかけを見つけてくださるとすれば望外の喜びです。受賞を励みとして、立ち止まらずに歩んで参ります。本書に目を留めてくださった選考委員の先生方、財団関係者の皆様、これまでにお世話になつたすべての方々に心よりお礼を申し上げます。

転載URL <http://www.suntory.co.jp/news/2013/119133.html>

本学で開催された学会・研究会
2013.4.1 ~ 2014.3.31

団体名	責任者	会名称・内容	日時	参加人数
伝承文学研究会	徳田 和夫	研究会	4月13日 7月20日 10月26日	各約20名
古事記学会	神田 典城	研究会	4月20日 9月21日 11月23日 12月21日	各約40名
関東日本語談話会	佐藤 琢三	研究発表会	5月11日 7月6日 9月7日 11月2日	各約30名
中国内陸地域歴史調査研究会	金野 純	研究会	5月11日 6月8日	各約15名
日本フードサービス学会	江口 泰広	総会・年次大会	5月11日	約200名
ルネサンス研究会	根占 献一	学会	5月19日	約150名
中古文学会	伊藤 守幸	中古文学会春季大会	6月8日 6月9日	各約330名
美学会・舞踊学会	尼ヶ崎 彬	学会例会・シンポジウム	6月15日	80名
科学研究費助成事業	根占 献一	国際学術会議 Renaissance Culture and Japan & Christian Century	7月20日	80名
幕藩研究会	岩淵 令治	研究会大会	9月8日	50名
日本語/日本語教育研究会	佐藤 琢三	研究大会	9月29日	約100名

平成25年度 客員研究員受入一覧

氏名	所属	研究テーマ	受入部署	共同研究者	受入開始	受入終了
Tillett, Barbara	RDA開発合同運営委員会議長	コピキタス環境における知識と情報の組織化の必要性とその実施	日本文化学科	越塚 美加 江藤 正己	8月28日	10月28日
木村 恵子	神戸女子大学 文学部英米文学科 教授	『源氏物語』に材を得た能作品の海外における評価及び神仏習合が日本の中世文学に与える影響について	国際コミュニケーション学科	古庄 信	4月30日	3月31日
ヒロ ヒロイ	ナイメーヘン大学哲学史・ 科学史研究所 研究員	近代西欧科学とキリスト教の創造論 日本の受容に関わる諸問題	国際コミュニケーション学科	根占 献一	7月15日	8月21日
Gheorghe, Alexandra, Marina	ブカレスト大学外国語・外国文学部 東洋語・東洋文学科 日本語・日本文学専攻 専任講師	Japan and the Western World: The Image of the 'Other' between 1853 and 1912	国際学研究所	木村 直恵	6月25日	9月12日
翁川 景子	学習院女子大学 非常勤講師	アジア地域におけるコモンズとサブシステムの歴史社会学的研究	国際コミュニケーション学科	石澤 靖治	7月1日	3月31日
Sracic, Paul	ヤングスタウン州立大学 教授 政治学科長	Politics and Trade in the U.S. and East Asia	国際学研究所	石澤 靖治	12月1日	12月31日
流 麻二果	画家	大学内における美術展示、美術作品制作、ならびにマネジメント(アートマネジメント国際セミナーに関連した研究)	国際学研究所	清水 敏男	11月1日	3月31日

図書館からのお知らせ from Library



グループ学習室のご案内



グループ学習室

図書館2階の談話室を改装し、今年度4月よりグループ学習室をオープンしました。このスペースはラーニング・コモンズ等の名称で近年多くの大学図書館が導入しているもので、学生が主体的に問題を発見し解答を導き出す「アクティブ・ラーニング」に対応した施設として、学生の能動的な学習をサポートしています。本学のグループ学習室は決して大きな施設ではありませんが、自由に利用できる可動式のテーブル、椅子、小型のホワイトボードなどの什器や、プラズマディスプレイやノートパソコンなどの機器を揃えています。図書館としては設備の利用方法についての説明会は特に行っていませんが、学生はオープン当初から施設の環境を存分に活用して、自分たちのグループ・ワークに最適な学習空間を作り上げ課題の解決に取り組んでいます。このような学生の柔軟な発想については図書館側としても大いに感心させられました。今後は利用者へのインタビューなどを通して、さらに充実した環境のグループ学習室にしたいと思っております。

卒論支援ガイダンスを開催しました

「卒論支援ガイダンス - 先輩の体験談を聞いてみよう -」を9月20日にやわらぎホールにて開催したところ、2年生から4年生まで約160名の参加がありました。このガイダンスは卒業論文作成に関する疑問に答えるため、平成25年3月に本学を卒業後、本学大学院(国際文化交流研究科)へ進学された大学院生3名をパネリストに迎え、「卒業論文作成のスケジュール」や「テーマを選んだ理由」などの体験談から、自身の失敗を踏まえた先輩へのアドバイスまで、約1時間にわたってパネルディスカッション形式で行われました。参加学生は先輩の話に耳を傾け、一生懸命メモをとる姿も見られ、好評のうちにガイダンスは終了しました。これも当日パネリストを務めてくれた3名の大学院生が夏休み中にもかかわらず、熱心に資料の準備やリハーサルに取り組んでくれたおかげです。本ガイダンスは次年度も開催予定です。卒業論文を執筆した先輩方の体験談やアドバイスを聴ける貴重な機会です。学生の皆さんぜひ参加してください。



秋ガイダンス

大河ドラマに図書館所蔵資料が登場しました

本学図書館所蔵資料『評論新聞』を元に作成されたレプリカが、平成25年のNHK大河ドラマ『八重の桜』の小道具として登場しました(放送日:9月15日)。明治8年(1875)3月に創刊された『評論新聞』は自由民権派の急進的な雑誌であり、この雑誌の刊行に参加したのが会津藩士であった永岡久茂という人物です。ドラマでは明治政府に反感を持つ会津藩士たちの話し合いの中で、同雑誌が効果的に取り上げられていました。また今回NHKのご好意により予備の小道具として作成したレプリカをお借りすることができ、9月中旬から下旬にかけ、企画展示としてオリジナルと並べ図書館展示コーナーにて紹介したところ、多くの学生の興味をひきつけたようです。図書館は他にも貴重な資料を多く所蔵していますので、機会を見つけて展示ができればと考えています。(『評論新聞』は所蔵館の少ない貴重な資料です。)



評論新聞(オリジナル)

兎(うさぎ)とかたちの日本文化

教授 今橋 理子 著

東京大学出版会
2013.9



犬や猫同様に、今日ウサギはペットとしても日本人にとって馴染み深い。本書では日本美術、文学、染織、工芸、和菓子、グッズ、現代アートなど、日本文化のあらゆる側面に表れた兎の表象を分析。そこから見えてくる「日本文化の特質」を論じ、文化の伝承あるいは創造することの意義を考える。

中世の寺社縁起と参詣 (中世文学と隣接諸科学8)

教授 徳田 和夫 編著

竹林舎
2013.5



日本中世は、寺社や霊場がその由緒や霊験・奇跡をきそって発信し、人びとがこぞって詣でるといふ信仰の時代であった。本書は、そうした動向を文学、芸能、絵画、民俗、比較文化の観点から論じて、現代にいたる精神文化史を構築する。

日本服飾史

教授 増田 美子 編著

東京堂出版
2013.4



大学生向け教科書として、日本の服飾の歴史を最新の説に基づいてわかり易く述べたもの。第一部は日本の服飾の歴史、第二部は洗濯の歴史、服飾とジェンダー、博物館と服飾資料等の各論という二部構成となっている。

幻想の敬語論

- 進歩史観の敬語史に関する批判的研究 -

教授 福島 直恭 著

笠間書院
2013.2

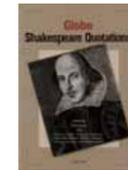


日本語話者にとって「敬語」とは何か? 言語の歴史的研究とは何か? を改めて考え直す書

Globe Shakespeare Quotations シェイクスピア名せりふ集

教授 古庄 信 共編著

朝日出版社
2013.1



英語の音読教材として、シェイクスピアの代表的な作品中の名せりふの数々を朗読CDとともに紹介する。

イタリア・ルネサンスの靈魂論

教授 根占 献一 編著

三元社
2013.4



フィチーノ、ピコ、ボンボナツィ、ブルーノの靈魂観をめぐる研究書。論文とともに翻訳(本邦初訳)を含む重版。

Iconic America

知られざるアメリカの今

准教授 萱 忠義 共編著

成美堂
2013.1



読解、文法、語彙に重点を置いた大学生向けの総合的英語学習テキスト。現代のアメリカの実状を浮き彫りにし、その背景にある興味深いエピソードを紹介。

地中海帝国の片影

フランス領アルジェリアの19世紀

准教授 工藤 晶人 著

東京大学出版会
2013.3



フランス植民地統治下のアルジェリアを題材として、思想、制度、地理という複数の時間軸から19世紀という時代の意味を考察した社会史研究。

2

日本文化学科 4年
徐 文卉
ジョ ブンキ(中国)



光陰矢の如し、日本に留学してから、もうすぐ六年目になります。この六年間を振り返ると、まるで夢のようです。

日本語学校在学中、学習院女子大学のオープンキャンパスに来ました。その時、この大学の雰囲気を感じ付けられて、受験しようと思った。今から考えても、学習院女子大学に入学することができたことは、とても幸運なことだと思います。

日本語学校で先生は学生のレベルによるクラスを分けて授業をします。しかし、大学では、能力に関係なく学生が同じ授業を受けることができます。先生は自分のペースで授業をします。留学生の私にとって、初めて日本人と一緒に授業を受けることは不安でした。しかし、皆親切で友達になってくれて、本当に嬉しかったです。また、日本語力がまだまだである私に対して、先生たちはよく励ましてくださり、もっと頑張らなくては、という気持ちが強くなりました。そして、この四年間一番通っていたのは国際交流推進

センターです。毎回センターに行く度、先生たちはいつも笑顔で話しかけてくださり、気持ちが落ち着きました。また、毎年いろいろなイベントや日帰りバス旅行を行ってくださいました。そのおかげで、留学生同士でも仲良くなり、一緒に遊ぶことができ、私たちの留学生活はさらに充実したものになりました。

私は日本文化に興味があつて、日本の伝統文化演習の授業を履修しました。茶道の授業は最初、足が痺れて、全然長く座れず、大変でした。茶道は日本の伝統文化です。平安時代、遣唐使が茶の製法を日本にもたらしました。授業で自ら茶道の作法をやる機会ができて、茶道文化の精髓を感じることができました。大学では日本文化だけではなく、ほかの国の文化も学ぶことができます。国により文化は違つことは当然ですが、それぞれの文化



1

協定留学生(ハンブルク大学)
Bolt Vivien Irene
ボルト ヴィヴィアン イレーネ(ドイツ)



2013年4月から学習院女子大学で交換留学生として一年間日本語を勉強しています。ドイツのハンブルク大学で2010年から日本学と英文学を勉強してきました。ずっと前から日本に行つてみたかつたので、ハンブルク大学で日本に留学ができるということを知って本当に嬉しく思いました。それにハンブルク大学は日本で協定大学が多く、同じ学年の学生は皆日本に行くことができるので、友達と一緒に日本で過ごすのも楽しみにしていました。また、一年間全く異なっている文化や習慣がある国で暮らすことにも挑戦してみました。

そうはいつても、やはり出発の前私に慣れ親しんだ国と全然違う国で一人暮らしをすることを不安に感じ始めました。そして、新しい友達ができるかどうかという不安もありました。けれども、東京に着いてから学習院女子大学の国際交流推進センターの方々とボランティア学生は温かく歓迎してくれたので安心しました。留学向けのクラブ活動の「International Team」で一緒にパーティーをしたり、歌舞伎を観に行ったり、遠足をしたりしてくれました。それに日本語の授業にもボランティアとして日本人の学生が参加して、日本人の学生ともいろいろな

ディスカッションをして、私のプレゼンテーションを聞いてもらっている話を私たちが国々に興味を持つてくれました。

そして、学習院女子大学の特別な魅力はやはり伝統文化の授業だと思つています。私が取つていたのは「仮名書道」と「有職故実」と「華道」でした。毎週とても面白くて、授業が楽しみでした。「華道」では、毎週授業で生けた綺麗な花を持って帰つて部屋に飾りました。それでいつも部屋は華やかにになりました。「有職故実」では、日本人もあまり着たことのない「十二単」を着る機会があり、貴重な体験をすることができました。その伝統文化の授業で日本の文化をもっと深く分かるようになりました。

それにせうかく一年間という長い期間日本に



るので旅行もたくさんしました。例えば、京都や石川県や四国に行つて、東京と少し違う日本の生活や文化を見ました。特に京都と奈良の昔から残つている寺や神社はとても印象深かつたです。日本は地域や季節によつて景色が異なります。なので、いろいろな場所に旅行したいと思つています。

この一年間、学習院女子大学での留学でたくさん経験ができてきたので、学習院女子大学の先生たちとセンターのスタッフさん方に心から感謝しています。

例え、京都や石川県や四国に行つて、東京と少し違う日本の生活や文化を見ました。特に京都と奈良の昔から残つている寺や神社はとても印象深かつたです。日本は地域や季節によつて景色が異なります。なので、いろいろな場所に旅行したいと思つています。

るので旅行もたくさんしました。例えば、京都や石川県や四国に行つて、東京と少し違う日本の生活や文化を見ました。特に京都と奈良の昔から残つている寺や神社はとても印象深かつたです。日本は地域や季節によつて景色が異なります。なので、いろいろな場所に旅行したいと思つています。



留学生日帰りバス旅行 ～秩父～



台風一過の翌日の10月17日(木)霞会館の後援のもと、留学生日帰りバス旅行で秩父方面に行ってきました。



当初は長瀬ライン下りを予定していましたが、前日の台風のため、船着場が流されてしまい、急遽予定が変更されるといふアクシデントもありましたが、晴天のもと留学生、日本人サポーター学生、教職員が親睦をはかりました。朝晩の冷え込みから長瀬川周辺は少し色づいた木々や秋の草花も見られました。

今年、埼玉秩父方面に向き、国指定重要文化財の古民家や郷土資料館を訪ねたり、秩父神社に参拝し、神主さんの説明を受けたりしました。また、近隣の農家を訪問し、しいたけ狩りや竹とんぼ作りも体験しました。原木に生えている肉厚のしいたけを刈り取り、おみやげにいただき、自作の竹とんぼを飛ばして遊ぶ学生達は、都会での生活では体験できないような貴重な経験をすることができた日となりました。

東京だけでないその土地ならではの良さに触れたことをきっかけに、他の地域にも足を延ばしてみたいという興味の芽端になればと願っています。

留学制度について

本学在学中に留学するには、以下の3つの方法があります。

1. 協定留学: 学内選考を経て、協定校に留学すること。
2. 私費留学: 自分自身で留学先を選び、本学の許可を受けた上で留学すること。
3. その他: 本学を休学して、海外の語学学校・専門学校などへ留学すること。(夏休みなどの長期休暇を利用して留学する場合には休学の必要はない。)

区分	留学期間	単位認定	学費	留学手続
協定留学	原則1年 / 在籍年数に算入	認定可	本学学費全額納入 協定校学費免除	国際交流推進センターと共同で行う
私費留学	原則1年 / 在籍年数に算入	認定可	在籍料相当額納入 留学先学費は自費	本人が行う
その他	休学期間は在籍年数に算入されない	認定不可	在籍料相当額納入 留学先学費は自費	本人が行う

協定留学について

1. 協定留学とは
本学では、現在13の国・地域16校の大学と交換留学協定を締結しています。この16校の協定大学へ、学内の選考を経た上、本学より推薦を受けて派遣されることを協定留学と言います。募集は原則毎年1回です。
2. 学生交換プログラムのある協定大学一覧(平成26年2月現在)

国・地域名	大学名/所在地	相互交換数 ¹	語学力 ²	授業料等納付金
アメリカ合衆国	ミズリ南部州立大学 ジョプリン/ミズリ	受入 5 / 派遣 4	TOEFL iBT 68点以上	派遣先=免除 / 本学=全額納付
イギリス	リーズ大学 リーズ	受入 35 / 派遣 30	TOEFL iBT 87点以上 [R22,L21,S23,W21]	派遣先=免除 / 本学=全額納付
エストニア	タリン大学 タリン	受入 17 / 派遣 14	TOEFL iBT 57点以上 [R8,L13,S19,W17]	派遣先=免除 / 本学=全額納付
オーストラリア	メルボルン大学 メルボルン/ヴィクトリア	受入 4 / 派遣 1	TOEFL iBT 79点以上 [R13,L13,S18,W21]	派遣先=免除 / 本学=全額納付
カナダ	ノーザンプリティッシュ・コロンビア大学 プリンスジョージ/プリティッシュ・コロンビア	受入 0 / 派遣 0	TOEFL iBT 80点程度	派遣先=免除 / 本学=全額納付
韓国	誠信女子大学 ソウル	受入 20 / 派遣 8	ハングル語検定3級程度	派遣先=免除 / 本学=全額納付
	梨花女子大学 ソウル	受入 0 / 派遣 0	ハングル語検定3級程度	派遣先=免除 / 本学=全額納付
台湾	静宜大学 台中	受入 0 / 派遣 0	中国語検定3級程度	派遣先=免除 / 本学=全額納付
	高雄大学 高雄	受入 0 / 派遣 0	中国語検定3級程度	派遣先=免除 / 本学=全額納付
チェコ共和国	ブラツキ オロモウツ	受入 37 / 派遣 14	英語で授業を理解できる能力	派遣先=免除 / 本学=全額納付
中国	清華大学 北京	受入 0 / 派遣 0	中国語検定3級程度	派遣先=免除 / 本学=全額納付
ドイツ 連邦共和国	ハンブルク大学 ハンブルク	受入 28 / 派遣 6	ドイツ語検定3級程度	派遣先=免除 / 本学=全額納付
	ミュンヘン大学 ミュンヘン	受入 14 / 派遣 14	ゲーテ・インスティテュート検定試験B1以上	派遣先=免除 / 本学=全額納付
ポーランド	ワルシャワ大学 ワルシャワ	受入 24 / 派遣 25	英語で授業を理解できる能力	派遣先=免除 / 本学=全額納付
ラオス	ラオス国立大学 ビエンチャン	受入 2 / 派遣 0	TOEFL iBT 57点以上	派遣先=免除 / 本学=全額納付
ルーマニア	ブカレスト大学 ブカレスト	受入 22 / 派遣 10	英語で授業を理解できる能力	派遣先=免除 / 本学=全額納付

¹ 協定締結からの交換人数総数 ² R=Reading, L=Listening, S=Speaking, W=Writing

留学説明会について

協定留学に興味のある方は、留学説明会に必ず出席してください。第1回は6月上旬、第2回は10月上旬に開催を予定しています。日時の詳細は、国際交流推進センター掲示板をご確認ください。

学習院女子大学(含大学院) 留学生数(国籍別)

International Enrollment

OCT 1, 2013

国籍	国籍別総数
中国	24
韓国	14
台湾	2
イギリス	3
ドイツ	5
マレーシア	1
チェコ	2
ポーランド	3
ベトナム	1
ラオス	1
ルーマニア	2
総数	58
内訳	
私費留学生	41
協定留学生	15
その他	2

海外留学報告

Gakushuin Women's College



国際コミュニケーション学科 3年 櫻田 朝子



私は2012年9月から2013年9月までの一年間、ルーマニアのブカレスト大学に協定留学をしました。高校生のときに香水に興味を持ち、研究をしていたところ、東欧諸国が香水の発祥地や香料の原産地であることを知りました。その頃、東欧革命20周年記念ということで、NHKでルーマニアについて特集をしていたのを偶然目にし、ルーマニアの歴史や文化に大変惹かれたのが留学のきっかけとなりました。本学に入学したのもルーマニアを研究している中島崇文先生がいらっしゃるのと、ルーマニアのブカレスト大学と協定を結んでおり、留学することができるからです。高校生の頃から夢見ていた憧れのルーマニアに留学することができて、本当に嬉しく思いました。

私が滞在をしていたのは学生寮でした。三人部屋で、最初は他の日本人留学生のときにも私を含め9人いました。二人と住んでいたのですが途中で一人が帰国したのですがルーマニア人の大学院生の人と一緒に暮らしていました。寮のすぐそばには大きなスーパーがあり、食料や日用品はそこで購入していたので不便はありませんでした。また、寮の裏にはパブが一軒あり、そこは学生向けに安く美味しい料理を出していたので友達とよく行きました。私はルーマニア語を勉強したからなのですが私が在籍した外国語学部には外国人向けのルーマニア語のクラスがなく、英語の授業を受けていました。でも、英語のクラスでは日本語の授業にもお手伝いに行っていました。分らない単語を教えたり、日本語の授業にもお手伝いに行っていました。また、ルーマニア語を教わりながら私に日本語を教えていました。また、ルーマニア語を伝えるためにデモンストレーションをしてみせたり、ときには書道のお手伝いをしたりもしました。文化祭や日本の夜というイベントでは日本人留学生たち総出でお手伝いをしました。私は風呂敷のプレゼンテーションとお化け屋敷のお化け役をやっていました。そのイベントで感じたのは、大勢のルーマニア人が日本文化に興味を持ってくれているという喜びです。特に私がプレゼンテーションをしていた風呂敷や着物、折り紙などの美しい模様

について関心を持って質問してくれました。遠く離れたなじみのない国の文化でも、その国の人々を魅了できる力が日本の文化にはあるのだと強く感じました。それは日本にいてだけでは決して味わえない感覚だと思っています。

ルーマニア人は本当に親切で優しくよく遊びに誘ってくれたり、買い物に付き合ってくれたりしました。また、家に遊びに行ったりときには美味しい料理を振る舞ってくれました。ルーマニアの料理は本当に美味しくて、日本人の舌によく合うと思います。私はサルマレというローカルな料理が大好きで、一番美味しかったので、それを友達のおばあ様に何気なく言ったところ、私が帰国する3日ほど前に瓶に、サルマレを作ってくれました。その味は今でも忘れられません。

ルーマニアは日本ではほとんど知られていませんが、自然が多く、歴史的建造物がたくさんあり、首都以外は静かで長閑なのんびりとした国です。もちろん、日本に比べれば不便なことも本当に数多くありますが、それらを乗り越えてきたことにより、私自身、以前よりも逞しくなりました。今後の人生に於いて大きな力になると思います。

雅祭

Miyabi Festival

国際コミュニケーション学科 3年
橘香織

雅祭とは、毎年四月に行われる新入生歓迎のお祭りのことで、新入生同士に交流の機会を設けたり、部活動・委員会との出会いの場を提供したりしています。

昨年度は、東日本大震災の影響により雅祭を経験できなかった私たちと、開催できなかった先輩達で運営しなければならず、手探りの状態での開催となりました。今年度は、昨年度の経験を踏まえて新入生が大学生活をより充実できるよう、また三十以上の参加団体にとっても意義のある雅祭にしようと話し合いを重ね、委員一同懸命に準備に励みました。

運営は決して簡単ではありませんでしたが、多くの方々のお力添えもあり、例年より多くの新入生に参加してもらうことができました。当日は悪

雅祭を終えて

橘香織

国際コミュニケーション学科 3年

天候のため縮小して実施する結果となりましたが、次年度も反省を活かして新たな委員と共に雅祭を創り上げたいと思います。共に雅祭を創り上げてくれた課外活動団体の方々、最後までご支援いただきました学生部の方々をはじめ、前委員の先輩方、運営側に関わってくださった多くの方々、そして委員のみんなに心より御礼申し上げます。



和祭

Yawaragi Festival



来場いただきました。

「学習院女子大学生には、もっと可能性があるがある！」和祭はそんなハワフルな私たちをお見せできる機会だと思えます。来場者の方と本学の学生が多く関わる大学祭だからこそこのテーマを！と今年のテーマを「Infinity」＝無限としました。私たち一人ひとりが持つ無限大の可能性を、人と人が出会ってことで広げ、未来への歩みとしてほしい。大学祭に関わるすべての人に何かきっかけを生むものになってほしい。このテーマに委員の想いを込めました。

イベントを企画していくにあたり、今年新しいことを積極的に取り入れ、テーマに沿った可能性広がるイベントをめざしてきました。当委員会の各部署が企画するステージイベントはもちろん、和祭では初の音楽ライブ、昨年好評であった海外の女の子を支援するチャリティピンキーリングの販売などを注いできました。また有志団体によるステージイベントや1年生英語クラスによる模擬店、部活動の展示も大

「和祭」を振り返って

2013年度大学祭実行委員会

井上佳織

本年度の和祭は10月19日、20日の2日間に渡って開催されました。例年になく大雨の中での開催となりましたが、多くの方にこ

盛況でした。

「もっと、もっと魅力ある和祭にしたい」この想いで活動してきた半年間。何かを創り上げる難しさを痛感し、プレッシャーと戦ってきた日々でもあり、多くの人に支えてもらい、創り上げていく喜びを知った日々でもありました。1つのアイデアを形にしていく過程でできること、できないこと何度も壁にぶつかってききました。しかし、仲間と助け合い、どうしたら実現できるのかを諦めず追求してきたことが大学祭成功へとつながったと思っております。委員長としてただただ走り抜けてきた日々、出会った人、かけていただいた言葉すべてが私の財産です。お越しくださった皆様、協賛いただきました企業の皆様、職員の方々、OGの先輩方、在学生、家族、そして227名の委員のみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



2013年皐月さんぽ

日本文化学科 3年 大瀧梨緒子



本学では毎年、開学記念日である五月十五日に、皐月さんぽという在学生・留学生・教職員をはじめとする多くの方々交流の機会を設けています。本年度は上野動物園を開催地としました。

園内では数グループに分かれて、動物園の方が用意してくださったクイズシートに挑みました。少し見ただけでは答えられず、じっくりと動物を観察することで正答できる難問も多く、挑戦がいのある内容でした。どのグループもお互いに意見を交わしながら、自然と会話が弾んでいたことが印象的でした。

昼食は藤棚の下で歓談をしつつお弁当をいただきました。その後のレクリエーションではクイズの答え合わせを行い、全問正解により優勝したグループには景品が、参加してくださった全員にはお菓子が配られました。今年度の皐月さんぽにご参加いただいた皆様の本学での学生生活に彩を添えられましたら幸いです。

最後になりましたが、皐月さんぽの開催にあたり、ご支援いただきました学生部の皆様、参加して下さった方々に心より御礼申し上げます。



2013 皐月さんぽ

書道部

calligraphy

「こぎけんよう」 私たち書道部は毎週木曜日の放課後に講師の先生をお招きしてご指導いただき、かな文字を中心に練習をしています。日々の練習は、段級取得のために筆で書く作品や、ペン習字も練習しております。部員のほとんどが入部した当初は、かな書道初心者ですが、年に2回出品する大きな書道展に、入賞・入選を果たすようになっています。

夏休みには新潟へ合宿に行き、字を極めるだけでなく、フチ観光や花火など部員みんなで和気あいあいと、楽しく充実した時間を過ごしています。学祭では、短大時代から続く伝統の「桜墨展」を開催しております。半紙に書く作品だけでなく、遊び心も取り入れながらさまざまな作品作りに取り組み、展示しております。また、OGの先輩方とも交流する機会があり、書道部のつながりの深さを実感できます。

書道部に入部すれば「美文字」になること間違いありません！ 就活も役に立つこと間違いなし！



書道に興味がある方、字が上手になりたい方、皆大歓迎です。ぜひ書道部に入って美しい字や日本の文化に触れてみませんか。部員一同心よりお待ちしております。

(日本文化学科2年 恩田友香子)

表千家茶道部

tea ceremony

「こぎけんよう」 私たち表千家茶道部は毎週木曜日に先生をお招きして、ご指導を受けながら日々練習に励んでいます。普段の練習では季節ごとに使用する道具やお菓子を覚えて四季折々の変化を楽しみながら活動しており、練習以外にも集中稽古のための合宿や新年の初釜、年に数回のお茶会を開催しております。

10月の大学祭では和茶会を開催しています。部員は着物を着てお点前をし、お越しくださったお客様をもてなします。茶道になじみのない方でも親しみやすいように立礼椅子に座って行うお点前(の形式をとり、お菓子は毎年特製のお菓子をお出ししています。本学の裏千家茶道部や他大学の茶道部との交流もしていて、相互のお茶会に招待し合い部活、練習の様子などの情報交換をします。



茶道は日本を代表する伝統文化の一つで海外からも注目されています。国際交流の場にも生かされ、お茶の知識だけではなく花や着物にも触れ、作法や立ち振る舞いは普段の生活にも生かされることでしょう。部員の中には経験者もいますが、大学から始めた初心者も多く在籍しております。表千家茶道部でもてなしの心を磨いてみませんか？

(日本文化学科3年 若林ひかる)

馬術部

horseman

「こぎけんよう」 私たちは学習院大学輔仁会馬術部です。女子大の学生も学習院大学と一緒に活動を行っています。現在学部員は20名。加えて高校生とも一緒にぎやかに活動しています。みなさんこんなにも都心に馬がいるなんて知っていましたか？ 私たちは学習院大学のキャンパス内にある馬場で毎朝早くから練習と馬のお世話を行っています。もちろん馬は、自分では馬房と呼ばれる場所から出られないので基本的な工事を与えたり掃除をしたり、運動を行ったりと作業内容は多岐にわたります。そして毎朝継続的に行うことが最初はとても大変です。しかしその分かわいい馬や、同期との仲が深まりとても有意義で充実した毎日です。すこすこができていきます。

馬術と聞くと結構敷居が高く感じると思いますが馬術部であるため費用の面でも相当低くほかの運動部とさほどかかっておりません。学校の大きな支えなどでできている面もありますがそこまで大きな負担がかかることはないと思います。また前から馬術をやっていたといった経験者が多い印象を与えますが実際は大学から始めた部員が大半を占めています。

さて、ここまでで馬術や馬術部に関心を持っていただけましたらぜひ「学習院大学馬術部」と検索してみてください。随時ブログは更新しております。もちろん直接馬場にもいらしてみてください。かわいい馬ともにお待ちしております。

(国際コミュニケーション学科3年 加賀見直子)



GWC EXPRESS vol.2 刊行



私たちの大学のことを、私たちらしい言葉でみんなに伝えたい。そんな思いからこのタブロイド紙は昨年度に第一号を刊行しました。昨年度は学内で初めての試みだったため、手探り状態で目の前のごとをひたすらつづけていきました。と、なんとか完成させることができました。多角的に取り上げ、膨らませたかったという反省点も残りました。そのような経験を踏まえ、さらなる飛躍を目指して今回の制作は始まりました。

実際に本学で大学生活を送り、その中でいろいろな経験をしてきた私たちだからこそ、受験生や保護者の方や在学生に伝えられることがたくさんあると思います。みなさんに楽しんでいただけるよう、今回は昨年にも増して、読みやすさを重視したデザイン、深く切り込んだ内容などさまざまな工夫をこらしてみました。表紙は私たちの想いを込めたハートをモチーフにしました。本学学生のリアルな生活を知ることのできる「女子大LIFE」や石澤学長おすすめ店も載っている。お散歩マップ、など、ページごとにさまざまな内容を盛り込みました。ページごとにテーマを決め、班ごとに取材を行い、文字に起こす。二つ々の作業が時間のかかるものですが、締め切りまでの短い時間で何度も何度も推敲し修正しました。大きく成長したGWC EXPRESS vol.2を刊行できたことを本当にうれしく思います。

前回のコンセプトに加え、手に取って見たくなる、読みやすく面白い広報誌を作ること課題にして進めた制作は、困難の連続でした。いくつもの壁にぶつかりましたが、それらを乗り越えることができたのは、編集委員会のメンバー一人一人の努力と協力のおかげだと思います。制作を通して学び得た経験は、これからの私たちの人生に大いに役立ち、成長させてくれるものだと思います。一人でも多くの方にこの広報誌を手にとりていただき、学習院女子大学の魅力を伝えることができれば光栄です。最後になりましたが、熱心にサポートしてくださった毎日新聞の方々に紙面のデザインを担当した制作会社の方々に石澤学長、学生部の方々、本当にありがとうございました。

(日本文化学科3年 岩井克帆)

学習院女子大学の就職力



入学時から全学年を対象にキャリア形成をサポートする目的で各学年に適した冊子を配付しています

- 1年生** 『キャリアデザインブック』
キャリア入門編として学生生活設計やキャリアプランを考えることを目的とした内容
- 2年生** 『キャリアデザインブック』
社会探求編として、世の中や社会を知り将来、どのように働くかを考えることを目的とした内容
- 3年生** 『就職ガイドブック』
就職活動への心構えから始まり、スケジュールや履歴書の書き方・マナーについて等実践で役立つ内容
- 4年生** 『自分で動く就職』
就職活動中だけでなく内定後、就職後、また退職した場合に起こる現実的な諸問題について卒業後も参考になるような内容
- 留学生** 『就職ガイドブック外国人留学生編』
日本での就職活動についてサポートするための実践的なアドバイス内容

特色ある就職支援プログラム

少人数制の利点を活かしたきめ細い就職支援
ゼミ形式のような少人数制のセミナーも数多く開催する他、当初のスケジュールに加えて、随時学生からの要望に応じた企画を立て、すぐに実施しています。年間のセミナー数は60回以上と他大学と比較しても回数・内容ともに充実しています。また、就職活動中の学生に個別に電話し、求人紹介や相談に対応するなど、きめ細やかな就職支援を行っています。

就職対策セミナー
1年生の「就職を見据えた学生生活の送り方」から始まり、3年生の「就職活動の実践的指導」まで、幅広いセミナーを用意。キャンピング対策講座等、女子大学ならではの就職対策セミナーを多数開催していますが、それに加えて学習院大学の就職支援プログラムへの参加も可能です。このように学習院大学とも連携して就職支援を行っています。

4年生の内定者によるサポート
内定を得た4年生による就職活動報告会では、最新の就職状況を聞くことができます。エントリーシートの書き方、筆記試験対策、面接などについて身近な先輩である4年生が、自分の体験に基づき3年生の疑問や不安に答えます。

面接対策セミナー
学習院の卒業生組織「校友会」の協力で、本番さながらの模擬面接を実施。人事などの第一線で活躍する卒業生の徹底した個別指導を受けることで、自信を持って就職活動に臨むことができます。

企業説明会・業界研究セミナー
各業界有力企業の人事担当者を本学に招いて、業務内容や採用状況等についての生の情報が得られます。質疑応答では人事担当者の本音を聞くこともできます。

就職支援スケジュール(平成25年度実績)

開催月	セミナー内容
5月	就職講演会「24年度就職活動報告と25年度就職活動スケジュールについて」 就職対策セミナー「社会で役立つスキルとは」 就職対策セミナー「公務員セミナー」 就職対策セミナー「適性・適職テスト」 就職講演会「国際機関での働き方について」
6月	就職対策セミナー「自分と仕事の発見-自己分析講座」 就職対策セミナー「筆記対策講座(申込制)」 就職対策セミナー「写真撮影・メイクアドバイス講座(アナウンサー等マスコミ対策)」 就職対策セミナー「就職模擬試験(SPI)」 就職対策セミナー「インターンシップ説明会」 4年生対象学内企業説明会
7月	4年生対象学内企業説明会 就職対策セミナー「SPI-筆記試験対策講座(解き方中心)」
9月	4年生対象学内企業説明会(於:学習院大学) 就職対策セミナー「マスコミ業界筆記対策講座(事前申込制)」 就職対策セミナー「アナウンサー試験対策講座(事前申込制)」 1年生・2年生向け「SDSキャリア診断テスト・ガイダンス」 就職対策セミナー「就職活動報告会・留学生版」
10月	就職対策セミナー「業界・企業研究の方法-いい会社・悪い会社の見分け方」 就職対策セミナー「新聞の読み方と業界選びの考え方」 就職対策セミナー「就職模擬試験(SPI試験・GAB/CAB試験)」 「面接対策セミナーガイダンス」 ビデオ上映会「SPI試験解説講座」 公務員試験対策 相談会 就職対策セミナー「メイク・就職写真アドバイス講座」 外見術について 就職対策セミナー「筆記対策講座」
11月	就職対策セミナー「メイク・就職写真アドバイス講座」メイクやマナーについて 就職対策セミナー「履歴書の書き方ミニ講座」 就職対策セミナー「面接時のマナー講座」(個人面接・グループディスカッション・集団面接対策) 4年生対象 学内企業合同説明会・求人紹介コーナー 内定者報告会 就職対策セミナー「エントリーシート・履歴書作成のポイント講座」 業界研究セミナー(商社 / 旅行) 業界研究セミナー(金融 / 信用金庫)
12月	就職対策セミナー「航空業界志望者対象ES等対策講座」 業界研究セミナー(運輸 / 金融 / 銀行) 面接対策セミナー
1月	パソナ主催 就職相談会(フレッシュキャリア制度説明会&選考) パソナ主催 新卒者就職応援プロジェクト説明会 ハローワーク主催 求人票紹介・面接対策会 就職対策セミナー「ES書き方対策ゼミ(事前申込制)」 就職対策セミナー「内定者報告会・相談会」
2月	就職対策セミナー「OGによるパネルディスカッション」 就職対策セミナー「模擬面接マナー講座」 学内企業説明会
3月	就職対策セミナー「事務適性検査対策講座」

学生専用就職支援サイト

本サイトには、「キャリア支援部からのお知らせ」や「就職掲示板」のメニューを設け、学生の皆さんへ迅速に情報提供をしています。



マスコミ掲載記事(就職関係)の紹介

週刊ダイヤモンド

平成25年10月12日号

「大学徹底比較 就職に強い学部・ゼミ・体育会はここだ!」



順位	大学名	就職率	卒業生数	就職者数
18	関西学院大学	74.6	31.2	40.0
19	大阪薬科大学	74.3	40.0	30.5
20	学習院女子大学	74.0	33.1	40.0
21	国際教養大学	73.5	33.5	40.0
22	金沢大学	71.6	31.9	20.4



- ・就職に強い大学総合ランキング全国第20位(女子大学では2位、私立女子大では1位)
- ・文系学部就職率ランキング 第19位(女子大では1位)
- ・上場企業就職率ランキング 第12位(女子大では3位)

全国編

順位	設置	大学名・学部名	所在地	就職率(%)	卒業生数	就職者数
1		一橋大	東京	54.5	997	486
2		東京工業大	東京	53.7	2789	832
3		国際教養大	秋田	45.8	144	65
4		豊田工業大	愛知	44.6	120	29
5		慶応義塾大	東京	41.6	7981	2779
6		大阪大	大阪	32.9	6308	1405
7		名古屋工業大	愛知	32.0	1614	303
8		京大	京都	31.8	6195	1244
9		上智大	東京	31.6	2824	777
10		東京理科大	東京	30.5	4475	877
11		電気通信大	東京	30.3	1458	283
12		早稲田大	東京	30.3	13214	3347
13		名古屋大	愛知	29.6	3862	730
14		神戸大	兵庫	27.8	4012	816
15		学習院女子大	東京	27.6	420	114
16		九州工業大	福岡	27.1	1677	293
17		聖心女子大	東京	27.0	546	138
18		東京大	東京	26.5	8104	1489
19		同志社大	京都	25.5	6669	1466
20		東京農工大	東京	25.3	1721	258
21		東北大	宮城	25.1	5017	838
22		国際基督教大	東京	24.6	570	119
23		東京外国語大	東京	24.6	735	164
24		京都工芸繊維大	京都	24.5	1114	156
25		立教大	東京	24.3	4376	1007

は国立、は私立、*は大学院修了者を含む

女子大学編

順位	設置	大学名・学部名	所在地	就職率(%)	卒業生数	就職者数
1		学習院女子大	東京	27.6	420	114
2		聖心女子大	東京	27.0	546	138
3		津田塾大	東京	24.1	622	138
4		東京女子大	東京	23.4	949	208
5		お茶の水女子大	東京	23.0	786	123
6		日本女子大	東京	19.5	1449	263
7		白百合女子大	東京	17.6	453	78
8		清泉女子大	東京	16.3	427	69
9		同志社女子大	京都	14.5	1468	209
10		フェリス学院大	神奈川	14.4	615	85
11		奈良女子大	奈良	14.3	535	52
12		東洋英和学院大	神奈川	13.6	620	83
13		神戸女学院大	兵庫	12.7	642	78
14		東北女子大	青森	11.4	88	10
15		昭和女子大	東京	11.3	1206	132
16		共立女子大	東京	10.8	1081	115
17		東京女子館大	東京	10.2	59	6
18		京都女子大	京都	9.4	1332	118
19		大妻女子大	東京	9.3	1593	147
20		群馬県立女子大	群馬	8.8	235	20

大学通信調べ

「有名企業を目指すならこの大学 大企業に強いベスト50大学」

サンデー毎日

平成25年11月17日号

全国の大学全体では15位、私立大学では6位、女子大学では1位に選ばれました。有名企業400社への本学からの就職者数は114名と、多くの企業から高い評価をいただいております。

キャリア支援部からのお知らせ

平成24年度の動向解説

(社)日本経済団体連合会の「採用選考に関する企業の倫理憲章」に基づき、平成25年度入社(平成24年度卒業)の採用選考に関する広報活動は、例年より2ヶ月後ろ倒しの12月スタートとなりました。企業の広報活動の時期が遅くなることに伴い、企業説明会の重複開催が生じたり、業界や企業への十分な理解ができないまま学生が採用選考に臨んだりすることが懸念されました。また、企業の採用意欲は前年よりやや上昇傾向にはあるものの、学生に対する採用基準は引き続き高い水準を維持していたため、学生にとっては依然として厳しい就職環境でありました。

に比べ今年度は19名、その内14名はCAと増えた。今年度は情報通信業に就職する者が増え、中でも採用選考が難関と言われるアナウンサー職に1名内定した。大学院修了者が11名の内、就職希望者10名、内8名が内定し80%(前年比+2.2%)であった。今年度着目したいのは、専門家や実務家を養成することを目的とした本院研究科から、専門知識を要する博物館や美術館へ内定した点だ。採用人数が少なく狭き門である博物館や美術館への就職実績が今後も継続することが期待される。

このような状況下、平成24年度の就職率は昨年同様、97.0%という高い就職率を達成することができました。就職率もさることながら、就職希望率が86.9%(前年比+2.3%)と高いことも本学の特徴です。平成24年度の就職状況の特徴は次のとおりです。

産業界就職状況の推移は「金融」「保険」が継続して上位ではあります。年々他業界へ内定者が分散し始めており、様々な業界で活躍する卒業生が増えてきています。平成25年度卒業生(平成26年3月卒)の現在の内定状況も「金融」「保険」業界への内定者が多く、右記と同様の傾向が見受けられます。

社会で活躍する卒業生が増えていくことで本学の就職力もさらに高まることが期待されます。

【平成24年度 主要産業界就職状況】

産業界	企業名(カッコ内は人数、1名は省略)	人数	%
金融・保険業	三菱東京UFJ銀行(17)、みずほフィナンシャルグループ(8)、三井住友銀行(8)、日本生命保険(5)、住友生命保険(4)、明治安田生命保険(4)、千葉興業銀行(3)、第一生命保険(3)、千葉銀行(2)、三井住友トラスト・ホールディングス(2)、日本マスタートラスト信託銀行(2)、中央労働金庫(2)、東京海上日動火災保険(2)、あいおいニッセイ同和損害保険(2)、JALカード(2)、日本政策投資銀行、東京都民銀行、りそな銀行、横浜銀行、群馬銀行、三菱UFJ信託銀行、三井住友海上火災保険、野村證券、大和証券等	94	26.5%
サービス業	エイチ・アイ・エス(7)、パナソニック(4)、JALスカイ(4)、JTBグループ(4)、テンプスタッフ(3)、高見(3)、SMBCインターナショナルオペレーション(2)、NECプロサポート(2)、セコム、明治神宮、鶴岡八幡宮、コナミデジタルエンタテインメント、東京大神宮、成田空港ビジネス、韓進インターナショナルジャパン、とちぎ総合法律事務所、樹実法律事務所、弁護士法人早稲田リーガル等	67	18.9%
卸売・小売業	中島重商店(2)、クロスプラス(2)、三菱食品(2)、ユニクロ(2)、岡谷銅機、三洋貿易、丸紅、日本液炭、住友商事マシネックス、豊通食料、双日、住友スチール、オンワード樞山、伊藤ハムミート販売東、ウォークストレーディング、フジオックス、飯田通商、東京薬品、米田三越、花王カスタマーマーケティング、イオンテール、ロクシタジャポ、横浜三越等	49	13.8%
情報通信業	ソフトバンク(9)、マナビジョン(2)、日通情報システム(2)、静岡第一テレビ、ジュビターショップチャンネル、日本コンピュータシステム、トランスコスモス、IJJ、NECモバイル等	29	8.2%
運輸業・郵便業	全日本空輸(5)、日本航空(5)、住商グローバルロジスティクス(2)、エアアジア・ジャバ(2)、商船三井、ANAエアサービス東京、Kスカイ、ANA新千歳空港、ANAエアポートサービス、ガルーダインドネシア航空、商船三井ロジスティクス等	26	7.3%
不動産業・物品賃貸業	野村不動産(2)、東急リパブリック(2)、みずほ信託不動産販売(2)、住友不動産販売、三井不動産ビルマネジメント、レオパレス21、エイブル、大和リビング、三井不動産リアルティ、丸紅建材リース、東京衣装等	19	5.4%
製造業	クボタ(2)、三菱電機、芝浦電子、小野薬品工業、大正薬山医薬品、パイロットコーポレーション、ビジョ、YKK、ワーナーミュージックジャパン、オクダヴィア・レコード、フジシールインターナショナル等	18	5.1%
複合サービス業	郵便局(4)、埼玉県信用農業協同組合連合会(2)、勤労者退職金共済機構、日本年金機構、全日本海員組合、君津市農業協同組合、埼玉県市町村職員共済組合、全国社会保険協会連合会等	14	4.0%
建設業	積水ハウス(3)、鴻池組、三井ホーム、新日鉄住金エンジニアリング等	9	2.5%
宿泊業・飲食サービス業	グリーンハウス、八芳園、キャピタル東急ホテル、ザ・リッツカールトン東京、MT&ヒルズホテル、セルリアンタワー東急ホテル、ヒルトン・ワールドワイド等	8	2.3%
公務	下妻市役所、開成町役場、相模原市役所、八千代市役所、松戸市役所、船橋市役所、千葉市役所	7	2.0%
医療・福祉	ニチイ学館、ニチイケアハウス、ベネッセスタイルケア等	7	2.0%
教育・学習支援業	学習院(3)、三幸グループ(2)、佐藤栄学園、東京医科大学	7	2.0%
合計		354	100%

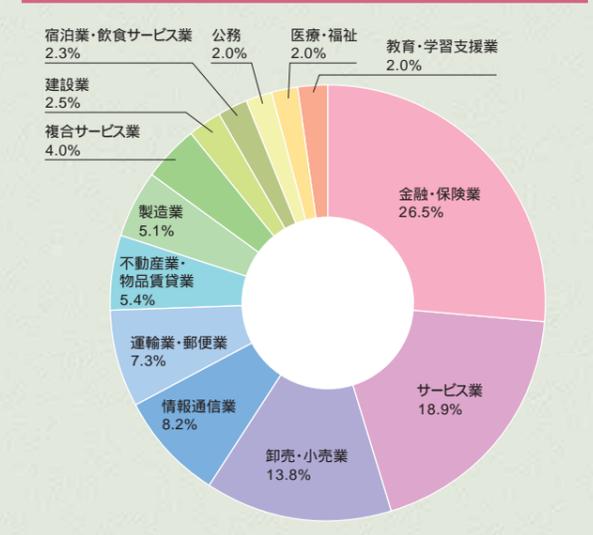
【就職先上位10社】

企業・団体名	人数
1 (株)三菱東京UFJ銀行	17
2 ソフトバンク(株)	9
3 (株)みずほフィナンシャルグループ	8
4 (株)三井住友銀行	8
5 (株)エイチ・アイ・エス	7
6 日本生命保険(相)	5
7 全日本空輸(株)	5
8 日本航空(株)	5
9 (株)JALスカイ	4
10 JTBグループ	4

平成24年度(2012年度)就職状況(平成24年9月・平成25年3月卒業生)	
卒業決定者	420
就職希望者	365
就職希望率	86.9%
就職内定者	354
就職内定率	97.0%

平成25年3月31日現在

平成24年度 学習院女子大学業種別就職状況 主な企業



内定者からの声

広島ホームテレビ 内定

平成26年3月 日本文化学科卒業 M・O

私にとって就職活動は、とても長く険しいものでした。マスコミ系、特にアナウンス試験は原稿読み、フリートーク、カメラテストなど予期せぬ課題ばかりなので、試験がいくつも続くと精神的にも体力的にも辛くなることもありました。

面接の時に心掛けていたのは、面接官の方との「会話」を純粹に楽しむことです。自分の緊張を和らげるため、私という人間を伝えるためにも、その部屋の雰囲気少しでも楽しくなるように! クスッとでも笑顔にできるように! と思っていつも面接に挑んでいました。

就活を終えてみて思ったのは、やはりコミュニケーション能力が大切だなということです。たとえうまく言葉にできなくても、マニュアル通りに文章を作って話すよりもその時々素直な気持ちを話した方が絶対に相手に響きます。

「自分は一体何がしたいのだろう?」と根本から悩んで何度も迷いそうになりました。しかし、就活中に出会った「一瞬の妥協は一生の後悔になる」という言葉。今ここで少しでも気を緩めてしまったら、諦めてしまったら、私は一生悔いが残るだろうと思ったので、最後まで全力で自分と向き合って走り続けました。

自分を信じて、やり切ってください。応援しています!

全日本空輸 内定

平成26年3月 国際コミュニケーション学科卒業 N・S

「自分らしさを大切に。」それが私の就職活動のモットーでした。私は中学生の頃からCAへの憧れを抱いており、大学生になってもその夢は変わりませんでした。3年の夏、OG訪問を通してANAという素敵な会社に出会い、「一緒に働きたい」と強く思うようになりました。12月に就職活動が始まると、辛いことも苦しいことも何度もありました。しかし、それが自分を見つめ直すきっかけ・成長のバネになりました。第一志望の面接はもちろん緊張しましたが、それでは自分らしさを発揮できないと思い、「面接は大好きな企業に自分の想いを伝えられる素敵な機会」と思うようにしていました。そうすることで笑顔・自分らしさ・感謝の気持ちを忘れることなく、面接を楽しむことができました。

内定を頂き、努力は実るのだと実感しました。私の背中を押してくれたキャリア支援部の方々、両親、友人、OGの方々、そしてANAの人事の方々には心から感謝しています。就職活動は辛いことも多いですが、その分だけ自分を見つめ直す機会があるのだと私は思います。努力をしてきた自分を信じて、自信を持って自分を表現すれば必ず運命の企業に出会えると思います。応援しています!

三菱商事 内定

平成26年3月 英語コミュニケーション学科卒業 M・H

私は就職活動を始めた当初、自分の進みたい道をなかなか決めることができず、合同説明会や企業説明会に積極的に参加し企業を知り、将来の自分像を描くことから始めました。企業の方のお話を聞く中で、人々の生活を支える縁の下の力持ちとして社会に貢献するエネルギー・インフラ分野に携わりたいと思い、就職活動を続けてきました。

しかし、面接で選考に落ちてしまった時など、どうしても他人と自分を比べてしまい、自信がなくなってしまうこともあります。そんな時は自分で自分の頑張り認め、不合格でも「縁がなかったんだ」と明るく前向きな姿勢でいよう心がけました。

就職活動中はさまざまな情報が飛び交い不安になる時もあると思います。周りに流されず「自分は自分」と心がけてください。肩の力を抜いて息抜きを忘れず、気合いを入れてやる時はやる!メリハリをつけ、楽しむ姿勢で頑張ってください!(それが難しいのですが...)

本学は他大学と比べ学生数が少ないこともあり、キャリア支援部の方がとても身近に感じられます。私の場合はESの添削を丁寧に親身になって指導してください、とても心強かったです。皆さんも立ち止まってしまう時は、周りの力を借りることを忘れずにください。

東京海上日動火災保険 内定

平成26年3月 国際コミュニケーション学科卒業 N・S

部活動や習い事が充実していたため、夏のインターンシップ参加やOG訪問などはできませんでした。そのため就職活動開始当初は自分が何をしたいのか、興味のある職業は何なのかなど漠然としていてとても不安でした。そこで業界を絞ることはせず幅広い業界の説明会に人一倍足を運びいろいろな方の話を伺いました。複数の人事の方がよく言われていた「内定がゴールではない、長い目で見て考えるべきだ。」という言葉を受けて、過去の自分を振り返るとともに将来の自分の生き方を一番考えるようにしていました。こうして説明会やOG訪問でお話を伺う中で新たな気づきを得ることができ、自分の将来像が明確になっていき志望業界・企業が絞られていきました。迷ったり自信を無くしたりつらいこともありましたが、家族に助けられ友達と励ましあい、たまにリフレッシュすることで乗り越えることができました。今振り返ると多くの人との出会いや試練が自分を見つめ直し成長させてくれたと実感できるとも濃い時間でした。ありのままの自分を見つめ自信を持って頑張ってください。

平成26年度 女子大学奨学金一覧表

各奨学金の詳細は学生部窓口にお問合わせください。

制度名	金額(円)	募集時期	貸・給別	備考		
安倍能成記念教育基金奨学金	大学院学生 450,000 学部学生 450,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 2年生以上対象		
学習院女子大学学業優秀者給付奨学金	大学院学生 300,000 学部学生 150,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 2年生以上対象		
学習院女子大学学費支援給付奨学金	学部学生 第2期授業料相当額	4月中旬	給付	採用1ヶ年		
学習院女子大学奨学金	大学院・学部学生 授業料・施設設備費等相当額以内	4月中旬	貸与	採用1ヶ年 継続出願は可		
学習院女子大学教育ローン金利助成奨学金	大学院・学部学生 在学中利子分給付	揭示による 11月下旬～12月中旬	給付	採用1ヶ年 毎年申請		
学習院女子大学外国人留学生奨学金 及び奨励金	奨学金 200,000 奨励金 300,000	5月中旬	給付	毎年申請 毎年推薦制		
学習院女子大学海外留学奨学金	500,000以内	揭示による	給付			
学習院女子大学協定留学生奨学金	500,000以内	募集しない・推薦制	給付	協定留学生		
学習院女子大学海外短期語学研修奨学金	100,000以内	揭示による	給付			
学習院女子大学海外ボランティア活動奨励金	100,000以内	揭示による	給付			
学習院父母会奨学金	学部学生 授業料・施設設備費相当額(100万円を上限)	揭示による 11月中旬～1月上旬	給付	採用1ヶ年 1回限り		
日本学生支援機構	学部学生	第1種(無利子)	自宅外通学 月30,000または64,000 自宅通学 月30,000または54,000	4月中旬	貸与	卒業月まで貸与
		第2種(有利子)	希望により貸与月額3万、5万、8万、10万、12万のいずれかを選択			
	大学院生	第1種(無利子)	月50,000または88,000	4月中旬	貸与	修了月まで貸与
		第2種(有利子)	希望により貸与月額5万、8万、10万、13万、15万のいずれかを選択			
日本学生支援機構 私費外国人留学生学習奨励費	大学院学生 月65,000 学部学生 月48,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 追加推薦あり		
その他公私機関による奨学金制度	その都度揭示を見てください。					

平成26年度 学年暦

平成26年4月～平成27年3月

4 April	春季休業 1(火)～5(土) 新生ガイダンス 1(火)～5(土) 健康診断 1(火)～2(水) 入学式 4(金) 雅祭 7(月) 春学期授業開始 8(火)	5 May	臨時休講 4/30(水)～2(金) 開学記念日(開講日) 15(木)	6 June	
7 July	休日開講日 21(月) 春学期授業終了 22(火) 補講期間 23(水)～24(木) 春学期末試験 25(金)～31(木)	8 August	夏季休業 1(金)～9/21(日) 集中講義期間 1(金) 4(月)～8(金)	9 September	春学期追試験 9(火)～10(水) 秋学期ガイダンス 18(木)～20(土) 秋学期授業開始 22(月)
10 October	休日開講日 13(月) 開院記念日(休講) 17(金) 和祭準備(休講) 17(金) 和祭 18(土)～19(日) 和祭片付け(休講) 20(月)	11 November	休日開講日 3(月) 24(月)	12 December	振替休講日 24(水) 冬季休業 25(木)～1/7(水)
1 January	授業開始 8(木) 秋学期授業終了 20(火) 補講期間 21(水)～22(木) 秋学期末試験 23(金)～31(土)	2 February	学年末休講 1(日)～3/24(火) 秋学期追試験 12(木)～13(金)	3 March	卒業式 19(木) 春季休業 25(水)～31(火) 在学生ガイダンス 24(火)～27(金)

平成25年度 入試の概況

学科	入試の種類	志願者	合格者	入学者
日本文化学科	一般入試	561	186	86
		85	71	67
		646	257	153
	その他特別入試等	1,280	347	99
		108	79	77
		1,388	426	176
国際コミュニケーション学科	一般入試	289	106	38
		16	15	8
		305	121	46
英語コミュニケーション学科	その他特別入試等	2,339	804	375
		289	106	38
		16	15	8
学部合計	合計	2,339	804	375
		2,339	804	375
		2,339	804	375

(平成25年4月1日現在)

平成26年度 入試途中経過

入試区分	学科	募集人数	志願者	受験者	合格者	倍率受/合
一般入試A	日本文化	60	497	484	223	2.2
	国際コミュニケーション	70	821	803	347	2.3
	英語コミュニケーション	30	220	212	112	1.9
一般入試B	日本文化	20	169	143	30	4.8
	国際コミュニケーション	30	419	361	44	8.2
	英語コミュニケーション	10	68	54	31	1.7
海外帰国生徒	日本文化	若干名	8	4	3	1.3
	国際コミュニケーション	若干名	12	7	4	1.8
外国人留学生	日本文化	10	5	5	5	1.0
	国際コミュニケーション	10	7	7	5	1.4
社会人	日本文化	若干名	0	0	0	-
	国際コミュニケーション	若干名	1	1	0	-
推薦A	日本文化	40	32	32	32	1.0
	国際コミュニケーション	50	57	57	57	1.0
	英語コミュニケーション	5	4	4	4	1.0
推薦B	日本文化	10	15	15	14	1.1
	国際コミュニケーション	10	24	24	15	1.6
AO	英語コミュニケーション	若干名	12	11	11	1.0
女子部推薦	日本文化	若干名	2	2	2	-
	国際コミュニケーション	若干名	2	2	2	-
	英語コミュニケーション	若干名	0	0	0	-
特別入試計	日本文化	60	62	58	56	1.0
	国際コミュニケーション	70	103	98	83	1.2
	英語コミュニケーション	5	16	15	15	1.0
総合計	日本文化	140	728	685	309	2.2
	国際コミュニケーション	170	1,343	1,262	474	2.7
	英語コミュニケーション	45	304	281	158	1.8
	合計	355	2,375	2,228	941	2.4

注:一般入試A・B方式は補欠繰上合格者を含む
推薦指定日本語学校出身者を含む(平成26年3月8日現在)

学習院女子大学 学生数 一覧

学科	日本文化学科	国際コミュニケーション学科	英語コミュニケーション学科	合計	大学院修士課程
1年	153	176	46	375	9
2年	165	179	48	392	7
3年	168	209	57	434	-
4年	181	211	38	430	-
合計	667	775	189	1,631	16

(平成25年12月1日現在)



平成25年度の主な活動

学習院キャンパス

4月14日

ヨーヨーつり・花見茶屋

「ヨーヨーつり」はお子様にも大人気でした。
「花見茶屋」はお茶とおまんじゅうでおもてなしいたしました。
・平成26年度は4月13日に開催予定です。

オール学習院の集い

互敬会館3階 草上会フロア

10月19・20日

作品展・バザー

作品展には今年も会員から多彩な作品が数多く出品されました。
バザーは学内外の方々にも好評をいただいております。
売上の一部は「女子大つながる わ」活動に寄付のほか、
新宿区社会福祉協議会にも車いすを寄贈いたしました。

和祭参加

互敬会館3階草上会和室

2月19日

「季節の花をいけましょう」

～身近な花材を使って～

講師に30回生の石井美香さんをお迎えし、チューリップや雪柳など春の花材を使っていけ花を体験しました。
ティータイムには会員手作りのクレープをいただきながら、和やかなひと時を過ごしました。



草上会ミニ講座

ホテルオークラ 東京

6月29日

第55回総会・懇親会が会員約170名参加のもと開催されました。総会に続き講演会、懇親会に移り、和やかなうちに閉会となりました。

講演「万葉歌人大伴家持と越中万葉」

講師 小野 寛氏
(駒沢大学名誉教授/高岡市万葉歴史館 特別顧問)

永年学習院女子短期大学で教鞭をとられた小野先生の熱のこもったご講演に、会場は学生時代の教室に戻ったようでした。
・平成26年度総会は講師に池坊 由紀氏(華道家元池坊次期家元)をお迎えし、6月15日に開催予定です。

総会・懇親会

学習院女子中・高等科 小講堂

11月30日

講演「これからの日本と私たち」

～少子高齢化社会を迎えて～

講師 野田 聖子氏
(衆議院議員、自由民主党総務会長)

時にユーモアを交えながら、熱意あふれるご講演に会場は温かい雰囲気にもまれ、好評のうちに終了いたしました。

草上セミナー

毎月

第2水曜日

新宿区社会福祉協議会に寄贈するミニ雑巾作りの他、バザー出品用品など、楽しみながら作っています。



ボランティア



第5回 草上セミナー

「これからの日本と私たち」 ～少子高齢化社会を迎えて～

十月三十日(土)午後二時から女子部小講堂に於いて衆議院議員、野田聖子氏の講演会が開催されました。草上会会員、在校生、学習院関係の来賓他一般の方、約二百名が熱心に聴講されました。

野田聖子さんは岐阜県議会議員を経て衆議院議員になられ、現在自由民主党の女性議員として総務会長の重責を務めていらっしゃいます。

七期連続当選を果たすまでの地道な選挙活動の様子をユーモアたっぷりに話されいつの間にかすっかり引き込まれてしまいました。特に、「少子化対策」は野田さんのライフワークであり、機会あることに訴えていらっしゃるとお聞きして改めて問題の大きさに気づかされました。

少子化を止めることはできないが、なだらかにしていくことはできるのではないかと、そのためには、女性が安心して子どもを産み育てていける社会を作っていくことが大切で、これからは女性の時代であり、専業主婦としての選択ではなく女性が生き生きとして働ける社会にしていきたい、と爽やかにそして力強く話されました。皆様からも大変良かったとの声をお聞きし、有意義なひと時を過ごすことができました。

(草上会会長 塚本優子)



特別講座

「古典」が「古典」になるとき



10月5日、草上会・特別講座として、学習院女子大学前学長の永井和子先生にご講演いただきました。永井先生は、昭和54年に学習院女子短期大学に助教としてご就任以来、30年余にわたり学習院女子大学の学生指導にご尽力ください、平成18年から23年までは学長として学校運営へ多大なるご貢献をいただきました。

また、ご研究では、日本における中古文学界の牽引者として多くの業績を残され、その成果は50冊を超えるご著書として広く知られております。

この度の講座では、古典作品の代表として、『万葉集』『枕草子』



『源氏物語』『徒然草』などが取り上げられ、言葉の障壁や現代と違う異質感があるにもかかわらず、これらの作品が多くの人々に好まれ、結果、現代まで読み継がれてきたものであること、同じ作品でも若い頃に感じたことと歳を重ねてから再読して感じたことには大きな差異があることなど、作品の部に触れながら参加者各人の感覚、個人的視点の自在性を指摘されました。

「古典」という難しい題材にも関わらず、先生のわかりやすく熱意あるお話により、90分の時間はあっという間に過ぎました。改めて古典に触れ、過去の自分とは違う、現在の自分の内面に気付くこともまた面白いのではないのでしょうか。



「第28回オール学習院の集い」開催のお知らせ

Topics
1

本院では、毎年4月に、学習院父母会、学習院校友会及び常磐会のご協力を得て「オール学習院の集い」を開催しています。
女子大学の学生団体も参加しますので、皆さんのお越しをお待ちしております。
なお、開会式及び大合同演奏会は、今年度も整理券の配付を予定しておりますので、予めご承知おきください。

- 日時** 平成26年4月13日(日)
午前9時30分～午後4時(雨天決行)
- 会場** 学習院目白キャンパス(豊島区目白1-5-1)
- 備考** 詳しくは事務室の窓口で配付するプログラム又はホームページ
(<http://www.gakushuin.ac.jp/ad/somu/all/>)
をご覧ください。

JICA主催「グローバル教育コンクール2013」における 本学の入賞のご報告

Topics
2

独立行政法人国際協力機構(JICA)は毎年、「グローバル教育コンクール」を主催しています(2010年度までは外務省が主催)が、2013年度の審査結果がこのほどJICA地球ひろばのホームページ上で公表されました。同コンクールには2013年度の中欧国際協力研修&ジュネーブ研修の参加者が応募していましたが、その結果、学習院女子大学が「団体奨励賞」を授与されることとなりました。
以下のように本学は同コンクールに5年連続で応募しておりますが、いずれも入賞という結果になっております。

- ・外務省主催「グローバル教育コンクール2009」「学校賞」
 - ・外務省主催「グローバル教育コンクール2010」「学校賞」
 - ・JICA主催「グローバル教育コンクール2011」「学校賞」
 - ・JICA主催「グローバル教育コンクール2012」「団体奨励賞」
 - ・JICA主催「グローバル教育コンクール2013」「団体奨励賞」
- (2012年度より「学校賞」という受賞のカテゴリーがなくなり、代わりに「団体奨励賞」となっており、教育機関以外の団体も受賞できるようになっています)

同コンクールにおいて5年連続で入賞した学校は国内外の無数の小中高校及び大学の中で学習院女子大学が唯一となっており、その他の団体においても全く例のないものとなっています。

また、2011年度の中欧国際協力研修に参加した学習院大学大学院生の渡辺基郎さんが再び一緒に応募していましたが、今回は単独で「協賛社特別賞」を授与されることになり、研修メンバー皆で喜んでおります。

JICA地球ひろばの以下のホームページの画面下方の受賞者・受賞団体一覧の賞名の箇所をクリックしてご確認ください。
http://www.jica.go.jp/hiroba/menu/global_edu/



2014年度オープンキャンパス

Topics
3

学習院女子大学では、受験生の方に各学科の学びやキャンパスを見て知っていただくため、2014年度より回数を増やしてオープンキャンパスを開催いたします。
学長からのご挨拶や大学概要・入試制度の説明、各学科の紹介、模擬授業、教員・在学生による個別相談、就職・留学相談、キャンパスツアー、

課外活動によるイベントなど、たくさんの催し物をご用意して、みなさんのご来場をお待ちしております。

- 第1回 平成26年6月14日(土)13:00～16:30
- 第2回 平成26年7月26日(土)13:00～16:30
- 第3回 平成26年7月27日(日)10:00～16:00
- 第4回 平成27年3月21日(土)13:00～16:30

学習院父母会事務局より

学習院女子大学の「父母(保証人)の皆様」には平日頃より、本院の学校運営に「理解と多大なるご協力をいただきまして、平成25年度の学習院父母会の運営も滞ることなく進んでおります。
このたびは昨年に引き続き「yawaragi」学習院女子大学だより」に学習院父母会の事業運営報告等につきまして掲載いただけますことを感謝いたしております。

学習院女子大学父母会会員の皆様へ
学習院父母会会長 小堀 正晴

会員の皆様には本会の運営につきましてご理解賜り感謝いたしております。
学習院における学習院父母会の役割は、他の学校法人には類のない独特な生い立ちと形態の歴史を踏まえて、直接あるいは間接に学習院全体の経営、教育に参画し支援する組織であり、その目的に従ってさまざまな活動を行っています。本会は、園児、児童、生徒、学生が学習院において充実した学校生活を送れるように多岐にわたって支援することを最も大切な役割であると考えております。それは、学習院が果たす社会への使命、そして明日の日本、世界の二翼を担っていると考えるからです。
本会は皆様から頂戴する年会費で運営されております。皆様とともに「子女の成長」に活躍をお祈り申し上げます。

- (1) 父母会の主要事業**
- ① 父母会奨学金制度(平成13年度創設)
学習院に在学する学生、生徒等で父母保証人の死亡などに起因し、家計が激変したことに伴い、学費の支弁が困難と認められる勉学熱心な者に対し、選考のうえ、年15名以内、年額授業料維持費(高等学校以下の名称)・施設設備費(大学及び女子大学の名称)相当額(100万円限度)を給付するものです。平成25年度は8名の学生、生徒等へ給付いたしました。
 - ② 父母会課外活動等助成金制度(平成13年度創設)
現代は単に学問だけでなく、スポーツ・文化などを含めた広く大きな「人格形成」が教育の場に求められています。そこで父母会は、大学、女子大学、男女中・高等科及び初等科の運動部・文化部等の課外活動に対し積極的に助成しております。
・各部・各クラブの備品用具等へ助成する
・一般助成金について、平成25年度は各学校合計69件でした。
・父母会課外活動等優秀賞受賞について、平成24年度は各校合わせまして、団体17件、個人43件でした。

父母会の近況報告

- (1) 地方における、地震災害による被災者父母保証人への見舞い等**
新潟県中越地震(平成16年)、福岡県西方沖地震(平成17年)、新潟県中越沖地震(平成19年)、岩手・宮城内陸地震(平成20年)、それぞれ、お見舞金を贈呈しました。
平成23年3月11日、東北関東地域に発生した甚大な災害に当たって、学習院東日本大震災義援金「100万円を募金しました。
また、東日本大震災罹災学生(大学及

おわりに

以上のように学習院父母会は直接あるいは間接に学習院の経営、教育に参画、支援をしている組織です。皆様と共に、これからも学習院を支え、より良い学校にする努力を続けて参りたいと存じます。

父母会本部事務局は目白キャンパスの学習院創立百周年記念会館2階にございます。ご利用の節はいつでもお越しくださいませ。

- (2) オール学習院の集いへの協力**
恒例の「オール学習院の集い」に対して、法人へ寄付すると共に、常任幹事の方々に、受付などのお手伝いをいただき、「共催」の役目を務めております。
(3) 大型物件の寄贈及び寄付
・百周年記念会館小講堂の椅子の老朽化に伴い200脚寄贈(平成20年)
・学習院女子大学へランドピアノ(スタインウェイC227)の寄贈(平成21年)
・幼稚園へAED及び保健室(AED訓練用)の寄贈(平成21年)
・学習院女子中・高等科エラスパレイコト人工芝化改修工事費の寄付(平成22年)
・校外施設(沼津游泳場・妙高高原)地デジ対応テレビ等買い替えの寄付(平成22年)
・幼稚園へステンレス製オリジナル2連登り棒を寄贈(平成23年)
・各学校(大学・幼稚園)へ災害時整備計画に基づき備蓄品等を寄贈(平成24年)
(女子大学用備蓄品として、アルファ米2100食及びサバイバル)2016缶を寄贈)

